

# 川崎市地震被害想定調査

## 報告書 (概要版)

平成25年3月

川崎市

## 目 次

1. まえがき	1
2. 調査概要	2
3. 被害想定結果	4
(1) H24 川崎市直下の地震	4
(2) 元禄型関東地震	9
(3) 慶長型地震	15
4. 区別被害想定結果	17
5. 調査体制	20
6. 前回調査結果	21

## 1. まえがき

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方を中心に甚大な被害をもたらしました。発生から2年が経過した現在でも、地震・津波被害や、福島第一原子力発電所事故からの復興はなかなか進まず、被災地では依然として不自由で不安な日々が続いています。被災地の1日も早い復興を願うとともに、本市としても、引き続き被災地や被災者支援に取り組んでまいります。

さて、本市では、危機管理対策や防災対策、耐震化対策などの推進を積極的に行い、災害に強いまちづくりに取り組んできたところですが、今回の東日本大震災を受け、本市としても防災対策の強化が課題であると改めて認識したところです。

国においても東日本大震災の教訓を踏まえて、今後30年以内に70%の確率で発生することが懸念されるマグニチュード7クラスの首都直下地震や、発生確率は低いものの津波等によって首都圏に甚大な被害が予想される相模トラフ沿いの最大クラスの地震について、対策の強化に向けた検討を進めています。

本市においては、平成21年度に川崎市域に最も大きな被害を及ぼす地震として川崎市直下の地震（M7.3）による地震被害想定調査を行っておりますが、最新の研究成果等による知見や東日本大震災の教訓を踏まえて被害想定調査を再検証しました。また、相模トラフ沿いの最大クラスの地震として新たに元禄型関東地震（M8.2）による被害想定も行うとともに、津波避難対策の推進に向けて、揺れは大きくないものの津波被害が最も大きい地震として、神奈川県が公表した慶長型地震の津波浸水予測図から津波被害を想定しました。

この地震被害想定調査を踏まえて、川崎市地震防災戦略及び備蓄計画を改定するとともに、臨海部防災対策計画及び津波避難計画の策定を行い、今後、川崎市地域防災計画や各局・区の地域防災計画等の修正に反映させ、地震災害に強いまちづくりを推進していきます。

防災関係機関や民間事業者、そして市民の皆様におかれましても、本報告書を参考に、東日本大震災の教訓を生かした防災・減災に向けて取り組んでいただければ幸いです。

最後に、基礎データの作成にあたりまして、御協力いただきました各関係機関の皆様にご場をおかりして御礼申し上げます。

## 2. 調査概要

### 被害想定の対象地域

被害想定調査の対象は全市域としました。原則として、市内全域を1辺約250mのメッシュに区分して、それぞれを単位として被害想定を行い、区単位で結果をとりまとめました。

### 被害の想定条件

本概要版で示した被害の想定条件は次のとおりです。なお、今回の調査では、このほか冬の5時、夏の12時についても想定していますが、ここでは、概ね全ての項目で被害が最大となり、交通機関や繁華街に滞留している人が多い想定条件での結果を示しました。

- ① 季節 : 冬                      ② 日 : 平日                      ③ 発生時刻 : 18時  
④ 風向・風速 : 北・6m/s

### 想定地震

今回の調査の想定地震は、国の中央防災会議や地震調査研究推進本部の最新の成果等を参考にして、次の2つの地震としました。

① H24 川崎市直下の地震 (マグニチュード(M) : 7.3)

＜発生した場合、川崎市への影響が最も大きい地震として、本市の直下で地震が発生することを想定しました。また、地震の規模(マグニチュード : M)についても兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)や東京湾北部地震と同等(M7.3)の大きさを想定しました。＞

② 元禄型関東地震 (マグニチュード(M) : 8.2)

＜1703年の元禄型関東地震の再来を想定しました。これまでの調査研究から、平均発生間隔が2,300年程度であり、今後30年以内に同様の地震が発生する確率は0%と推定されていますが、東日本大震災の教訓を踏まえ、発生頻度が低い場合であっても大きな被害を及ぼすおそれがある地震として、相模トラフ沿いを震源とする地震のうち、規模が最も大きく川崎市でこれまで未調査だった地震を選定しました。＞

なお、津波浸水予測については、神奈川県が行った調査成果\*を活用し、上記元禄型関東地震の他に「慶長型地震(マグニチュード(M) : 8.5)」も対象としました。

\*神奈川県津波浸水予測図(2012)

## 調査結果の概要

調査結果の概要は次のとおりです。(被害数は一部を除き、一の位で四捨五入の作業を行っています。)

種別	被害項目	被害単位	H24川崎市直下の地震	元禄型関東地震	慶長型地震
斜面・河川	急傾斜地崩壊	危険性が高い急傾斜地(箇所)	314	202	**
	河川堤防被害	被害率(%) (多摩川・鶴見川)	13	5	**
建物	揺れによる建物被害#	全壊数(棟)	21,566	7,311	**
		半壊数(棟)	48,089	28,106	**
	液状化による建物被害	全壊数(棟)	497	466	**
		半壊数(棟)	1,088	988	**
	斜面崩壊による建物被害	全壊数(棟)	266	170	**
		半壊数(棟)	621	397	**
	津波による建物被害	全壊数(棟)	*	0	8
		半壊数(棟)	*	5,528	10,025
被害合計	全壊数(棟)	22,329	7,947	8	
	半壊数(棟)	49,798	35,019	10,025	
地震火災	出火	出火件数(件)	243	87	**
	延焼	焼失棟数(棟)	16,395	5,801	**
人的被害	死者	死者数(人)	819	415	5,816
	負傷者	負傷者数(人)	15,822	6,819	**
	り災世帯	全壊世帯(世帯)	57,456	19,910	20
		半壊世帯(世帯)	126,733	76,679	24,545
	焼失世帯(世帯)	44,868	15,092	**	
ライフライン	上水道	断水世帯数(世帯) (1~3日後)	351,337	207,655	**
	下水道	機能支障世帯数(世帯) (直後)	276,022	102,075	**
	通信	不通(回線)	129,450	61,058	**
	電力	停電件数(件)(直後)	399,050	357,291	**
	ガス(都市ガス)	供給停止件数(件)	267,972~546,882	120,314~191,409	**
交通	道路橋	大規模損傷(箇所)	0	0	**
	鉄道	不通路線(路線数) (1日後)	9	0	**
	港湾	被害パース(パース数)	17/27	19/27	**
生活支障等	避難者	避難者数(人) (1~3日後)	361,077	182,888	**
		避難者数(人) (28日後)	162,472	60,590	**
	医療機能	来院者数(人) (1~3日間)	16,380	7,003	**
	災害用トイレ	必要個数(個) (1~3日後)	6,018	3,048	**
	震災廃棄物	がれき発生量(千トン)	2,881	1,508	**
	自力脱出困難者	(人)	396	132	**
	エレベータ停止	停止台数(基)	7,352	7,670	**
	帰宅困難者	主要駅前滞留者(人) (私用等の目的:平日15時)	34,616		**
経済被害	直接経済被害額(億円)	40,336	26,464	9,510	

\*「H24川崎市直下の地震」の津波は本調査では想定していません。

\*\*「慶長型地震」は津波による建物被害・人的被害(死者数)・建物被害による経済被害のみ想定しています。

#揺れによる建物被害は、本調査では構造被害を基準(大破・中破)として想定していますが、ここでは自治体基準により算定した結果(全壊・半壊)を示しました。

### 3. 被害想定結果

#### (1) H24 川崎市直下の地震

〈 **震度** 〉 川崎市内においては、震度 5 強～7 の揺れになると想定され、市内のほとんどの地域で震度 6 弱以上の揺れになると想定されます。震度 7 となる地域が、幸区～多摩区のごく一部の地域にあり、幸区、中原区、高津区ではほとんどの地域が震度 6 強となり、川崎区、宮前区も多くの地域で震度 6 強の揺れになると想定されます。多摩区、麻生区のほとんどの地域は震度 6 弱ですが、一部には震度 6 強となる地域もあります。震度 5 強にとどまる地域は非常に限られた所だけに想定されています。

**\* 被害 \*** 市内全域に被害が及ぶと想定されますが、特に高津区以南の地域で被害が大きくなると想定されます。

〈 **人的被害** 〉 市内での人的被害は、死者が約 820 人、負傷者が約 15,820 人と想定されます。要因別の被害の内訳（死者）は次のとおりです。

- ・建物被害：死者約 520 人。
- ・急傾斜地崩壊：死者約 10 人。なお、最大は冬 5 時の場合に約 20 人。
- ・屋外落下物：死者数人程度。
- ・家具転倒：死者約 20 人。なお、最大は冬 5 時の場合に約 30 人。
- ・ブロック塀等の倒壊：死者約 20 人。
- ・火災：死者約 250 人。

〈 **救出** 〉 救出が必要となる自力脱出困難者は、市内で約 400 人と想定されます。建物被害の大きい地域では、川崎区で約 120 人、幸区で約 80 人の自力脱出困難者が発生すると想定されます。なお、自力脱出困難者が最大となるのは冬 5 時の場合で、市内で約 410 人です。

〈 **避難者** 〉 建物被害、断水、エレベータ停止（停止台数は、地震直後に市内で約 7,350 台）による地震発生 1 日後の避難者数は、およそ 36 万人、市の人口の約 26%と想定されます。地域でみると川崎区、中原区の各区が約 7 万人（川崎区では人口の約 24%、中原区では人口の約 28%）と多く、幸区、高津区、宮前区の各区では約 5～6 万人の避難者が想定されます。

〈 **帰宅困難者** 〉 地震直後には、鉄道の路線点検等により不通となるため、帰宅困難者が発生します。川崎市内の主要ターミナル駅では、従業員や学生を除く駅前滞留者が約 35,000 人発生すると想定されます。

〈 **建物** 〉 建物の被害は、市内で全壊棟数が約 22,330 棟（全建物の約 9%）、半壊棟数が約 49,800 棟（全建物の約 20%）と想定されます。このうち、揺れによる被害が最も多く、全壊は約 21,570 棟（被害全体の約 84%が木造の建物）と想定されます。地域でみると、最も被害が多いのは、全壊が川崎区で約

6,280 棟、次いで幸区で約 4,550 棟と想定されます。液状化による被害は、市内で全壊が約 500 棟と想定され、急傾斜地崩壊による被害は、市内で全壊が約 270 棟と想定されます。

〈急傾斜地崩壊〉 急傾斜で崖崩れの生じる危険性が高い地点は、市内で約 310 箇所に達すると想定されます。

〈液状化〉 川崎区の沿岸部や多摩川沿いの地域で液状化の可能性がかなり高いと想定されます。また、幸区、中原区、高津区の低地部や多摩川沿いの地域でも液状化の可能性がかなり高いと想定されます。

〈火災〉 出火件数は、市内で約 240 件と想定されます。出火地点は市内全域にわたりますが、高津区が最も多く想定されます。焼失棟数は市内で約 16,400 棟と想定されます。地域で見ると、最も被害が多いのは川崎区で約 3,990 棟、次いで中原区で約 2,860 棟の焼失が想定されます。

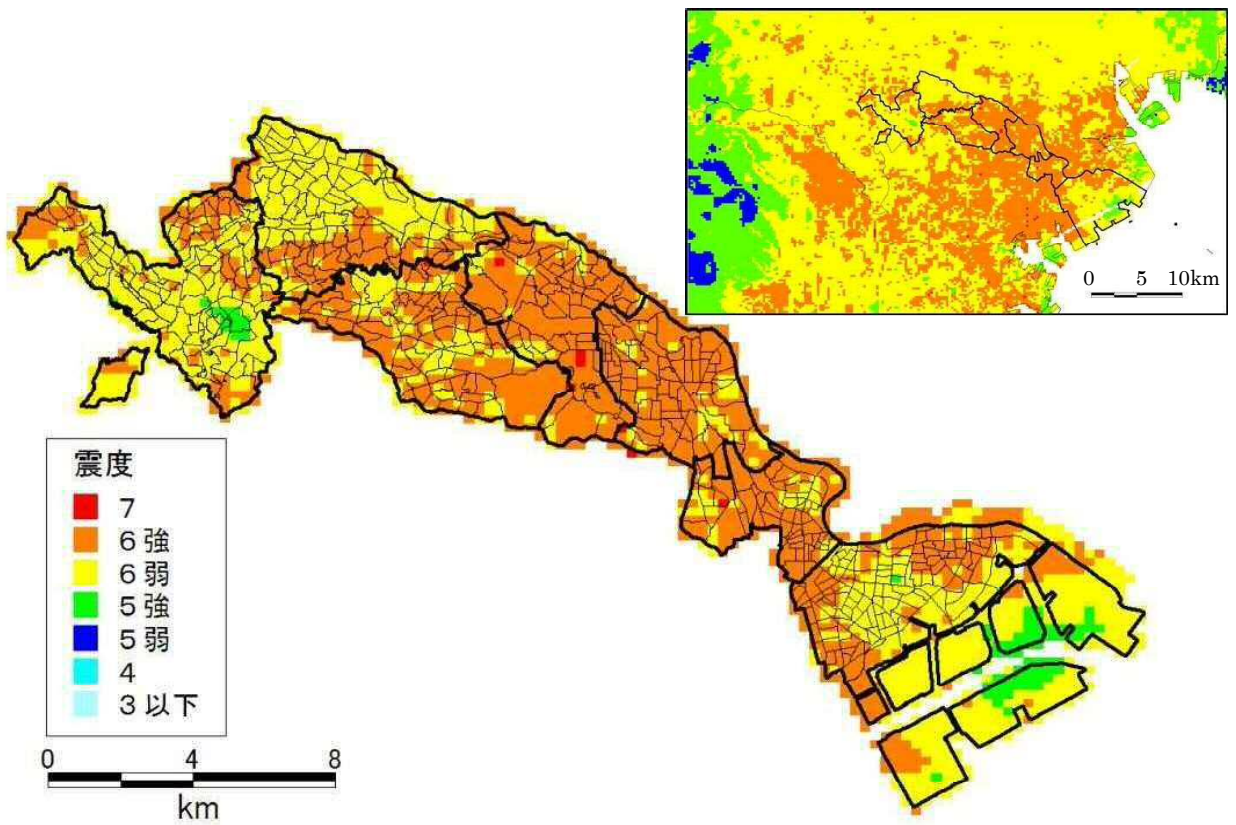
〈ライフライン〉 上水道は、市内で約 390 箇所の被害が発生し、被災直後の断水世帯は約 35 万世帯に達すると想定されます。下水道は、約 28 万世帯に機能支障が生じると想定されます。停電は約 40 万世帯、固定電話の不通は約 13 万回線になると想定されます。都市ガスは、被害状況によってはほぼ全ての 55 万件の供給停止が生じると想定されます。

〈道路・鉄道〉 市内で橋梁・橋脚の被害は発生しますが、1 か月程度以上にわたって通行規制となる区間は生じないと想定されます。鉄道については、市内においては、9 路線（貨物線も含む。）について不通となると想定され、数日間不通となる路線も想定されます。また、市外についても、不通となる路線が発生する可能性があります。

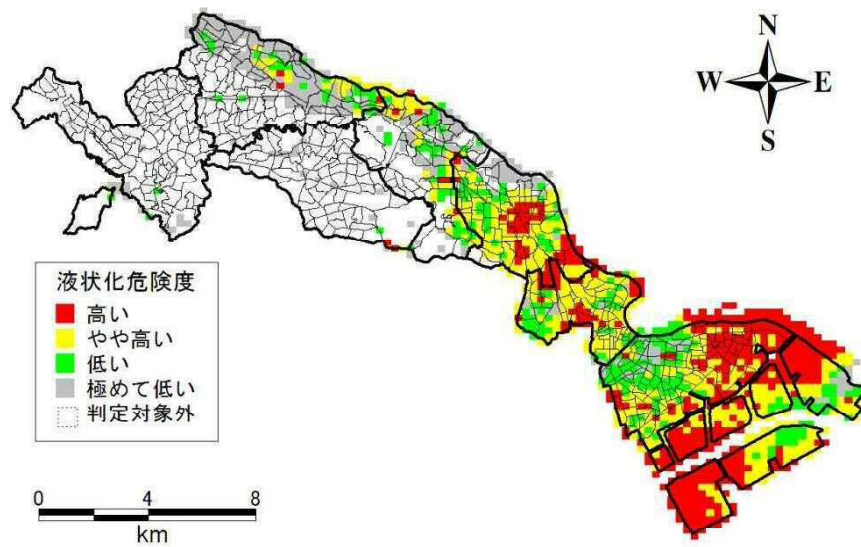
〈港湾施設〉 川崎港では、2 バースについて耐震岸壁として整備済みであり、非耐震バースのうち、17 バースに被害が発生すると想定されます。

〈災害廃棄物〉 建物の全・半壊や焼失等により生じる災害廃棄物の発生量は、市内で約 2,881 千トンに達すると想定されます。

〈経済被害〉 経済的な被害額は、直接被害が約 4 兆円と想定されます。

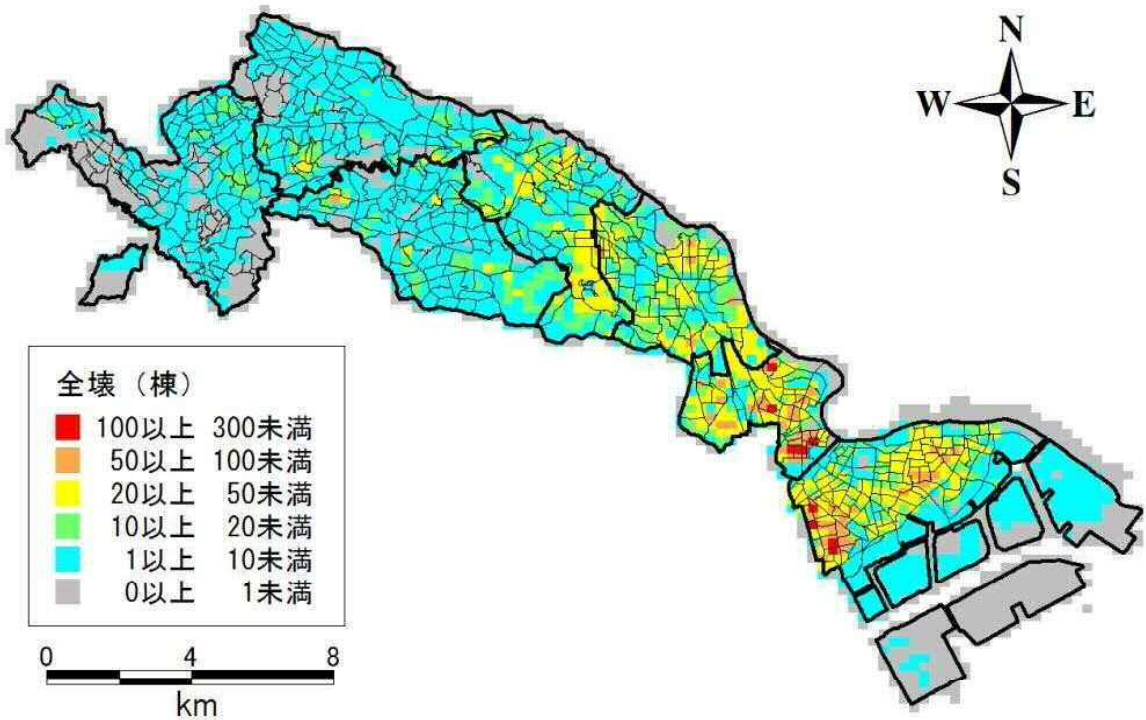


H24 川崎市直下の地震の震度分布（右上は広域の震度分布）

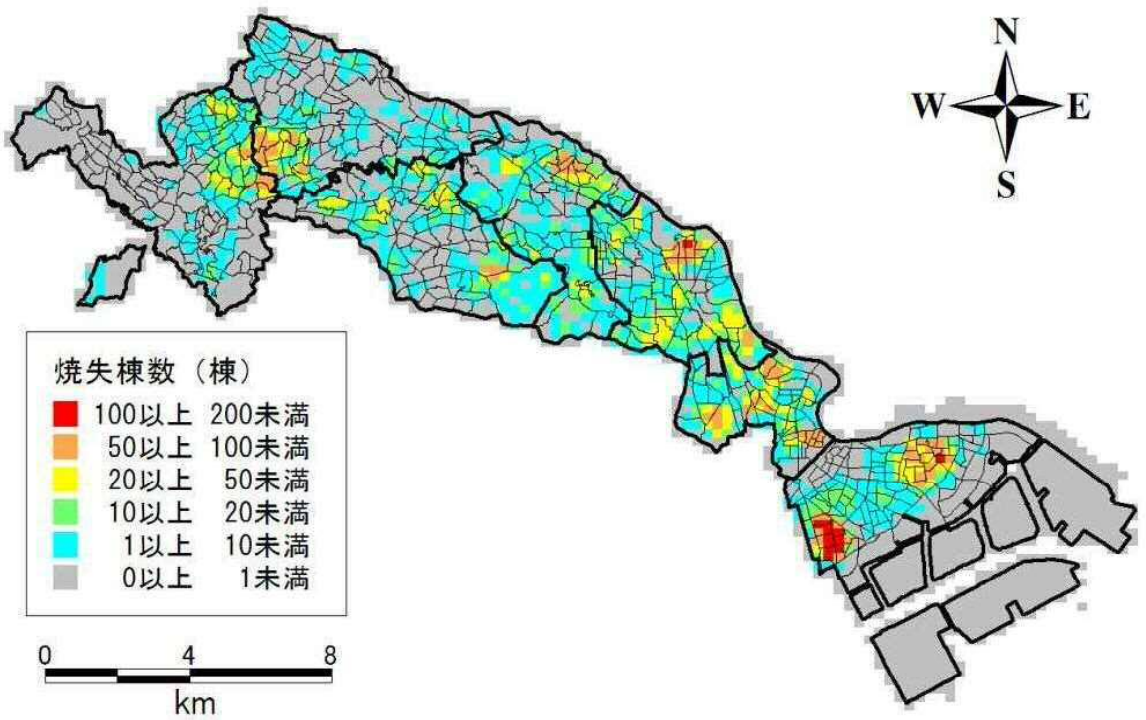


H24 川崎市直下の地震の液状化危険度分布

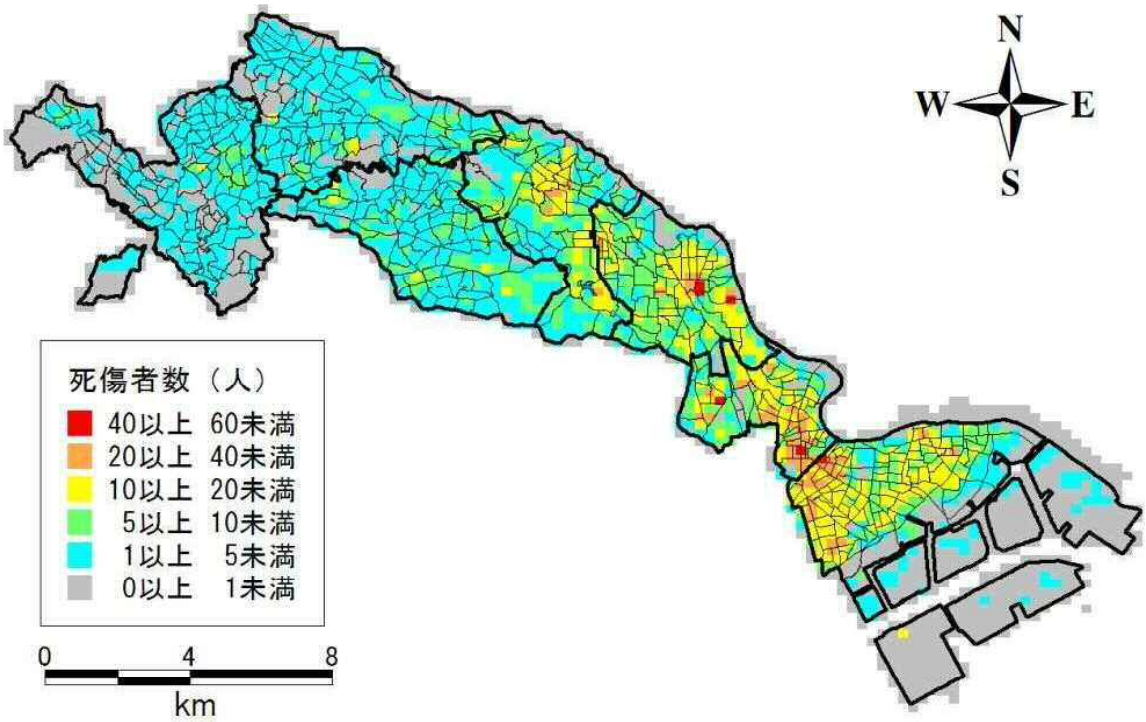




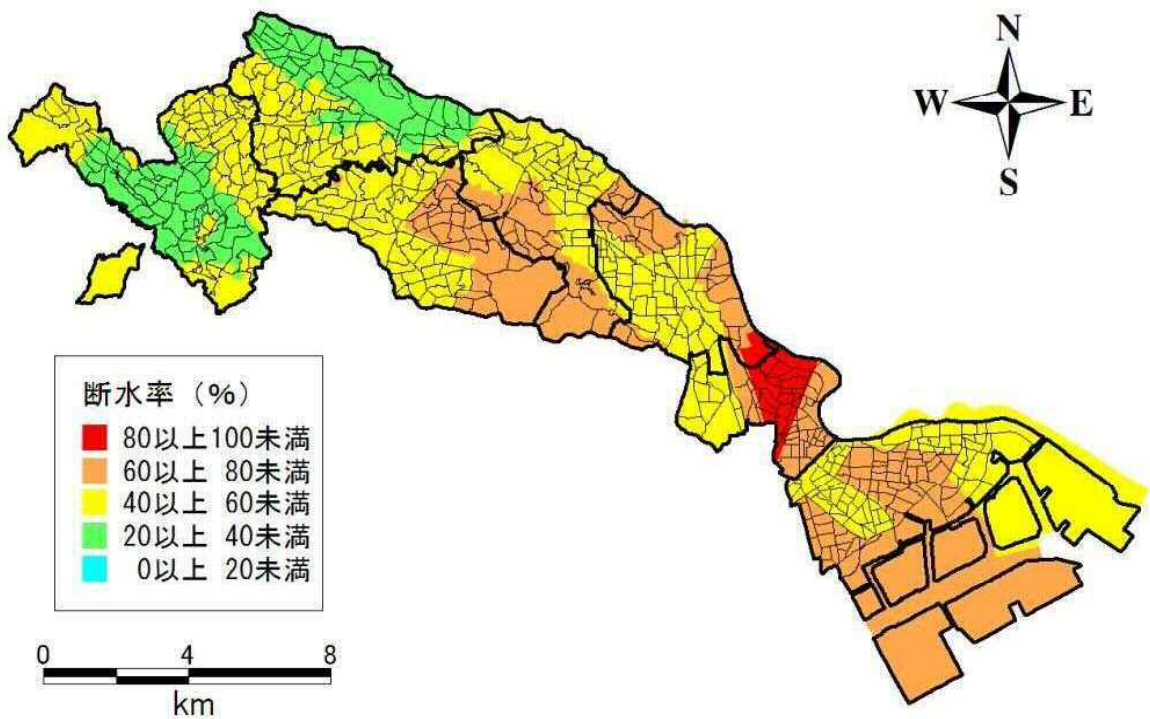
H24 川崎市直下の地震の全壊棟数分布



H24 川崎市直下の焼失棟数分布（冬 18 時）



H24 川崎市直下の地震の死傷者数分布 (冬 18 時)



H24 川崎市直下の地震の断水率分布 (1~3日後)

## (2) 元禄型関東地震

〈 **震度** 〉 川崎市内においては、震度5強～6強の揺れになると想定されます。

**\* 被害 \*** 市内全域に被害が及ぶと想定されますが、特に川崎区の被害が大きくなると想定されます。

〈 **人的被害** 〉 市内での人的被害は、死者が約420人、負傷者が約6,820人と想定されます。要因別の被害の内訳(死者)は次のとおりです。

- ・建物被害 : 死者約180人。なお、最大は夏12時の場合に約190人。
- ・急傾斜地崩壊 : 死者約10人。なお、最大は冬5時の場合に10人強。
- ・屋外落下物 : 死者は発生しない。
- ・家具転倒 : 死者約10人。なお、最大は冬5時の場合に約20人。
- ・ブロック塀等の倒壊 : 死者約20人。
- ・火災 : 死者約90人。
- ・津波 : 死者約110人。なお、最大は夏12時の場合に約120人。

〈 **救出** 〉 救出が必要となる自力脱出困難者は、市内で約130人と想定されます。建物被害の大きい川崎区で約80人の自力脱出困難者が発生すると想定されます。なお、自力脱出困難者が最大となるのは夏12時の場合で、市内で約140人です。

〈 **避難者** 〉 建物被害、断水、エレベータ停止(停止台数は、地震直後に市内で約7,670台)による地震発生1日後の避難者数は、およそ18万人、市の人口の約13%と想定されます。地域で見ると川崎区が約5万人(区の人口の約19%)と最も多く、幸区、中原区、高津区、宮前区の各区では約2～3万人の避難者が想定されます。

〈 **帰宅困難者** 〉 地震直後には、鉄道の路線点検等により不通となるため、帰宅困難者が発生します。川崎市内の主要ターミナル駅では、従業員や学生を除く駅前滞留者が約35,000人発生すると想定されます。

〈 **建物** 〉 建物の被害は、市内で全壊棟数が約7,950棟(全建物の約3%)、半壊棟数が約35,020棟(全建物の約14%)と想定されます。このうち、揺れによる被害が最も多く、全壊は約7,310棟(被害全体の約76%が木造の建物)と想定されます。地域で見ると、最も被害が多いのは、全壊が川崎区で約4,560棟、次いで幸区で約600棟と想定されます。液状化による被害は、市内で全壊が約470棟と想定され、急傾斜地崩壊による被害は、市内で全壊が約170棟と想定されます。津波による被害は、全壊は想定されませんが、半壊となる被害が、川崎区で約5,530棟と想定されます。

〈 **急傾斜地崩壊** 〉 急傾斜地で崖崩れの生じる危険性が高い地点は、市内で約200箇所に達すると想定されます。

〈 **液状化** 〉 川崎区の沿岸部や多摩川沿いの地域で液状化の可能性がかなり高いと

想定されます。また、幸区、中原区の低地部でも液状化の可能性がかなり高いと想定されます。

＜ **火災** ＞ 出火件数は、市内で約 90 件、焼失棟数は市内で約 5,800 棟と想定されます。地域で見ると、最も被害が多いのは川崎区で約 2,100 棟、次いで宮前区で約 800 棟の焼失が想定されます。なお、東日本大震災時には津波による火災が発生しています。現在、火災発生要因の分析等の研究が行われている途上であり、今回の調査では、津波による火災については考慮していませんが、津波による火災被害が発生する可能性もあることには十分注意する必要があります。

＜ **ライフライン** ＞ 上水道は、市内で約 230 箇所の被害が発生し、被災直後の断水世帯は約 21 万世帯に達すると想定されます。下水道は、約 10 万世帯に機能支障が生じると想定されます。停電は約 36 万世帯、固定電話の不通は約 6 万回線になると想定されます。都市ガスは、被害状況によっては約 19 万件の供給停止が生じると想定されます。

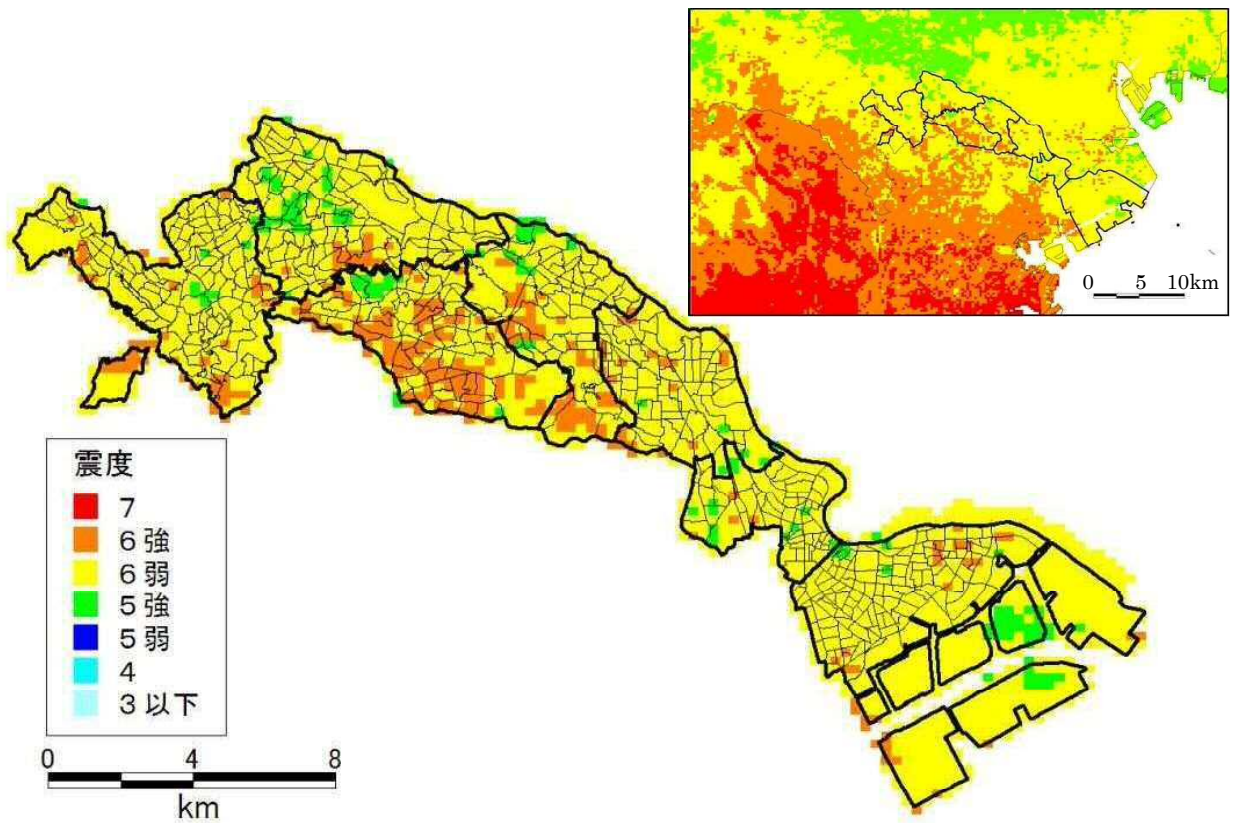
＜ **道路・鉄道** ＞ 市内で橋梁・橋脚の被害は発生しますが、1 か月程度以上にわたって通行規制となる区間は生じないと想定されます。鉄道については、市内においては、1 日後以上不通となる路線は想定されませんが、市外については、不通となる路線が発生する可能性があります。

＜ **港湾施設** ＞ 川崎港では、2 バースについて耐震岸壁として整備済みであり、非耐震バースのうち、19 バースに被害が発生すると想定されます。

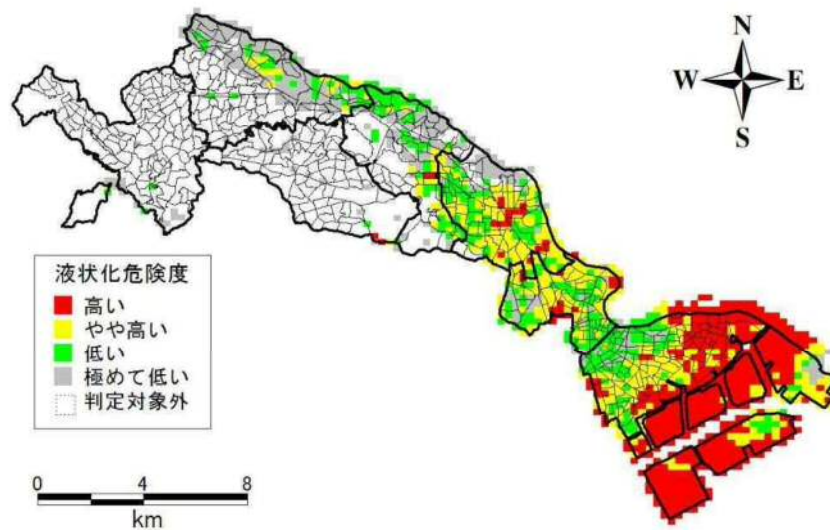
＜ **災害廃棄物** ＞ 建物の全・半壊や焼失等により生じる災害廃棄物の発生量は、市内で約 1,508 千トンに達すると想定されます。

＜ **経済被害** ＞ 経済的な被害額は、直接被害が約 2.6 兆円と想定されます。

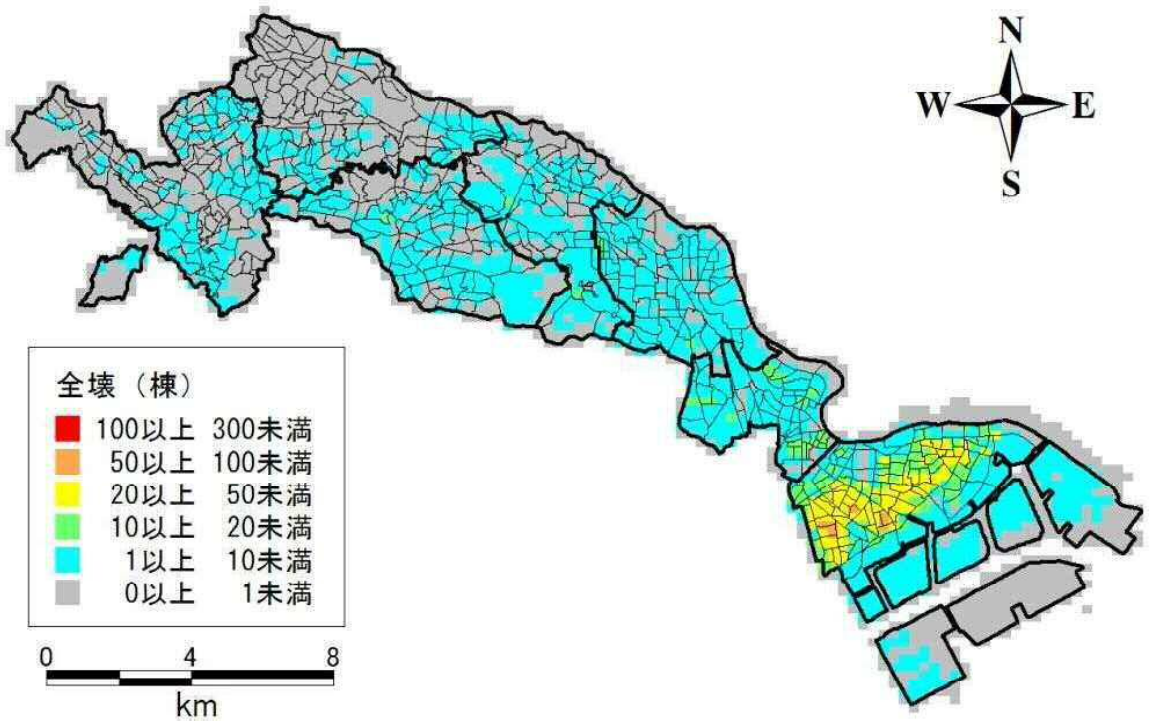
※＜ **長周期地震動** ＞ 元禄型関東地震のようにマグニチュード8クラスの巨大地震が発生すると、関東平野のような厚い堆積層に覆われた平野では、小刻みな強い揺れが収まった後から、ゆっくり揺れる長い周期の揺れ（長周期地震動）が強く発生する可能性があります。長周期地震動は数分以上長く揺れが続くため超高層ビルなどでは、室内の家具が転倒したり、移動するなど思わぬ障害物となる危険性があるため、家具の固定の必要性が強調されています。長周期地震動の影響は現在研究途上であり、今回の被害想定調査では長周期地震動による高層住宅等での屋内被災の具体的な被害について定量的な評価は行なっていません。今後、国の研究機関等での数値解析や実験の結果を今後も注意して見守る必要があると考えています。



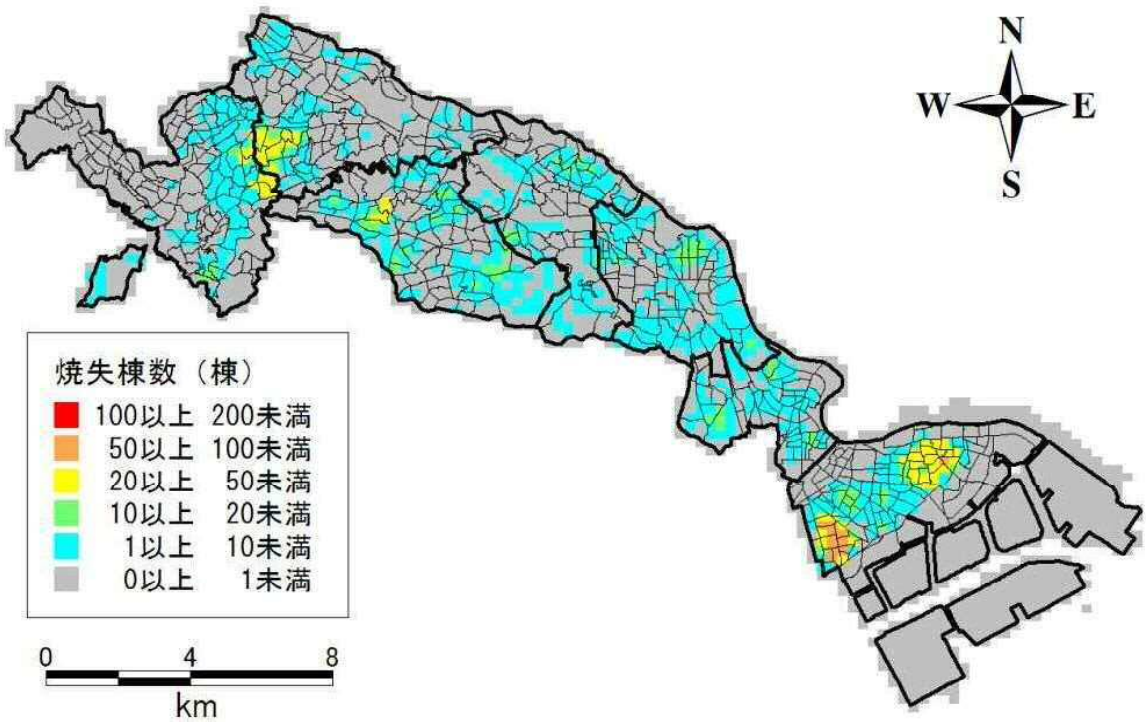
元禄型関東地震の震度分布（右上は広域の震度分布）



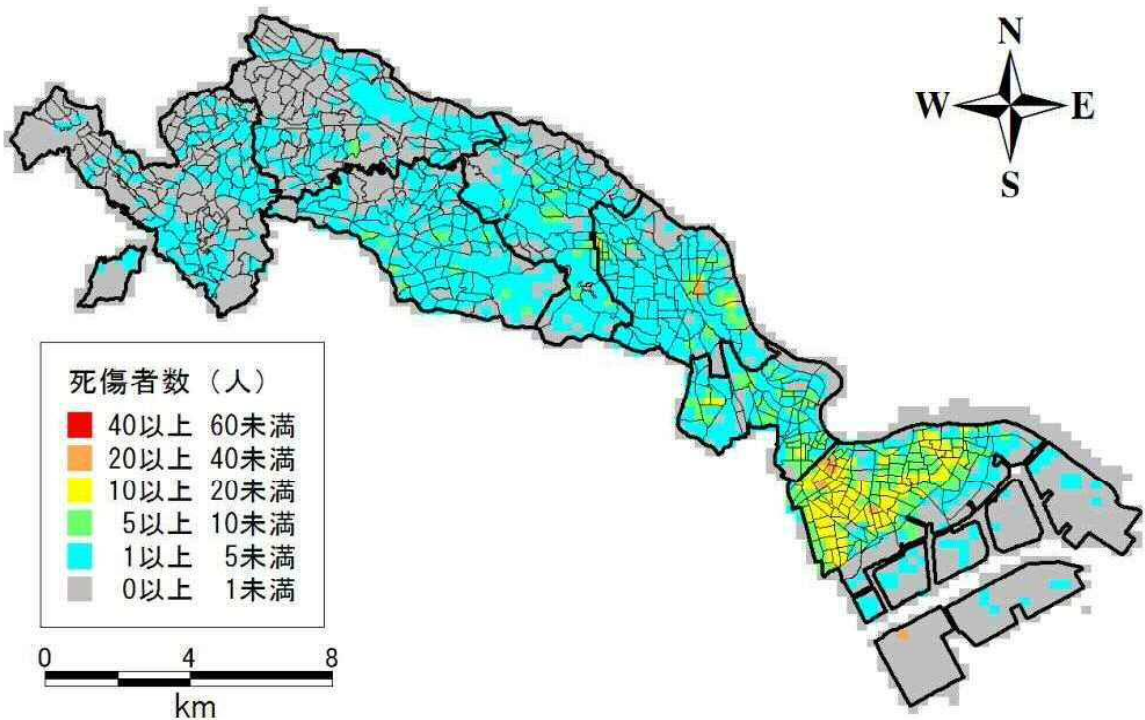
元禄型関東地震の液状化危険度分布



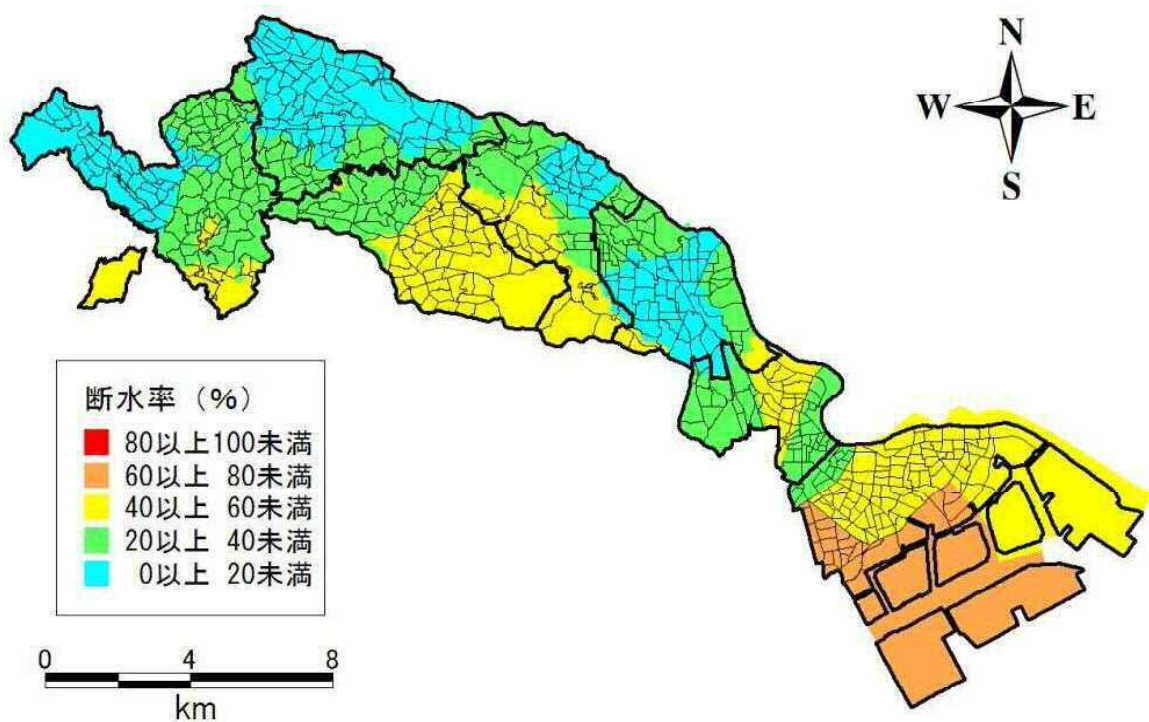
元禄型関東地震の全壊棟数分布



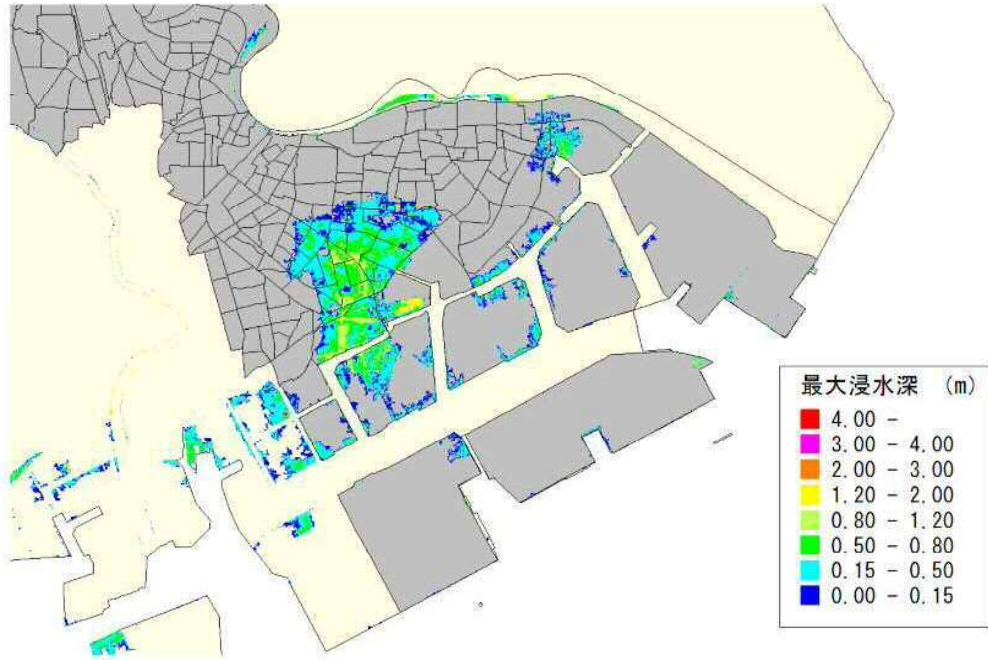
元禄型関東地震の焼失棟数分布（冬 18 時）



元禄型関東地震の死傷者数分布 (冬 18時)



元禄型関東地震の断水率分布 (1～3日後)



元禄型関東地震の津波浸水予測



### (3) 慶長型地震

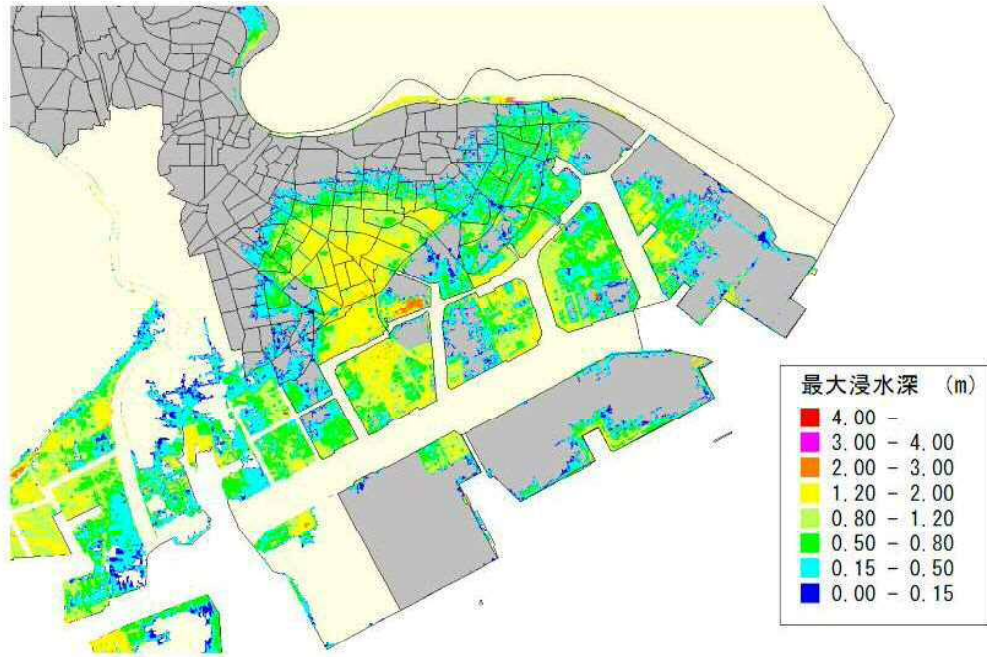
慶長型地震については、津波浸水による、建物被害、人的被害、及び建物被害による経済被害のみ想定しています。

**\* 被害 \*** 川崎区の被害が大きくなると想定されます。

＜ **人的被害** ＞ 市内での人的被害は、死者約 5,820 人と想定されます。死者のほとんどは川崎区で発生しています。

＜ **建物** ＞ 建物の被害は、川崎区で全壊棟数が約 8 棟（全建物のほぼ 0%）、半壊棟数が約 10,030 棟と想定されます。

＜ **経済被害** ＞ 経済的な被害額は、直接被害が約 9,500 億円と想定されます。



慶長型地震の津波浸水予測





(3) 慶長型地震

区名	建物被害			人的被害			経済被害	
	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	半壊に至ら ない浸水数 (棟)	死者 (人)	り災世帯			直接経済被害 建物被害(津波)に よる被害(億円)
					全壊世帯 (世帯)	半壊世帯 (世帯)	浸水世帯 (世帯)	
川崎区	8	10,025	4,606	5,806	20	24,545	11,277	9,510
幸区	0	0	11	10	0	0	33	0
中原区	0	0	0	0	0	0	0	0
高津区	0	0	0	0	0	0	0	0
宮前区	0	0	0	0	0	0	0	0
多摩区	0	0	0	0	0	0	0	0
麻生区	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	8	10,025	4,617	5,816	20	24,545	11,310	9,510

※合計は四捨五入の関係で合わない場合があります。

～基礎資料～

総世帯数と時間帯別人口

平成24年6月末現在

	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	全市計
総世帯数	111,875 (16.7%)	72,763 (10.9%)	116,877 (17.5%)	102,158 (15.3%)	94,571 (14.1%)	98,900 (14.8%)	72,173 (10.8%)	669,318 (100%)
5時	220,872 (15.5%)	156,225 (11.0%)	232,160 (16.3%)	217,325 (15.3%)	221,850 (15.6%)	204,585 (14.4%)	169,622 (11.9%)	1,422,639 (100%)
12時	275,020 (22.7%)	120,956 (10.0%)	207,841 (17.2%)	178,105 (14.7%)	157,179 (13.0%)	149,520 (12.3%)	123,065 (10.2%)	1,211,685 (100%)
18時	281,402 (19.9%)	146,043 (10.3%)	236,859 (16.8%)	210,126 (14.9%)	197,149 (14.0%)	185,371 (13.1%)	154,510 (10.9%)	1,411,459 (100%)

全建物棟数と内訳

平成24年3月末現在

	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	全市計
総数	45,694 (18.3%)	24,254 (9.7%)	35,775 (14.3%)	33,495 (13.4%)	34,946 (14.0%)	38,116 (15.3%)	37,088 (14.9%)	249,368 (100%)
木造	26,167 (15.3%)	16,483 (9.7%)	22,762 (13.4%)	23,055 (13.5%)	25,757 (15.1%)	27,319 (16.0%)	28,928 (17.0%)	170,471 (100%)
R C造	4,520 (18.3%)	1,797 (7.3%)	4,017 (16.2%)	3,596 (14.5%)	3,812 (15.4%)	3,825 (15.5%)	3,178 (12.8%)	24,745 (100%)
S造	15,007 (27.7%)	5,974 (11.0%)	8,996 (16.6%)	6,844 (12.6%)	5,377 (9.9%)	6,972 (12.9%)	4,982 (9.2%)	54,152 (100%)

## 5. 調査体制

今回の地震被害想定調査においては、調査の進め方、被害想定の手法、調査結果等について、学識経験者からなる「川崎市防災対策検討委員会東日本大震災対策検討部会」において審議しました。個別の技術課題については、部会の下に担当のワーキンググループを設けて検討しました。

### 川崎市防災対策検討委員会東日本大震災対策検討部会 委員

(敬称略五十音順)

- 加藤孝明 国立大学法人東京大学生産技術研究所 准教授  
桑野玲子 国立大学法人東京大学生産技術研究所 准教授  
庄司 学 国立大学法人筑波大学大学院システム情報工学研究科 准教授  
○田中 淳 国立大学法人東京大学大学院情報学環 教授  
日野宗門 総務省消防庁消防大学校 客員教授  
古村孝志 国立大学法人東京大学大学院情報学環／地震研究所 教授  
村尾 修 国立大学法人筑波大学大学院システム情報工学研究科 准教授  
◎目黒公郎 国立大学法人東京大学生産技術研究所／大学院情報学環 教授  
◎部会長、○副部会長（部会長代理）

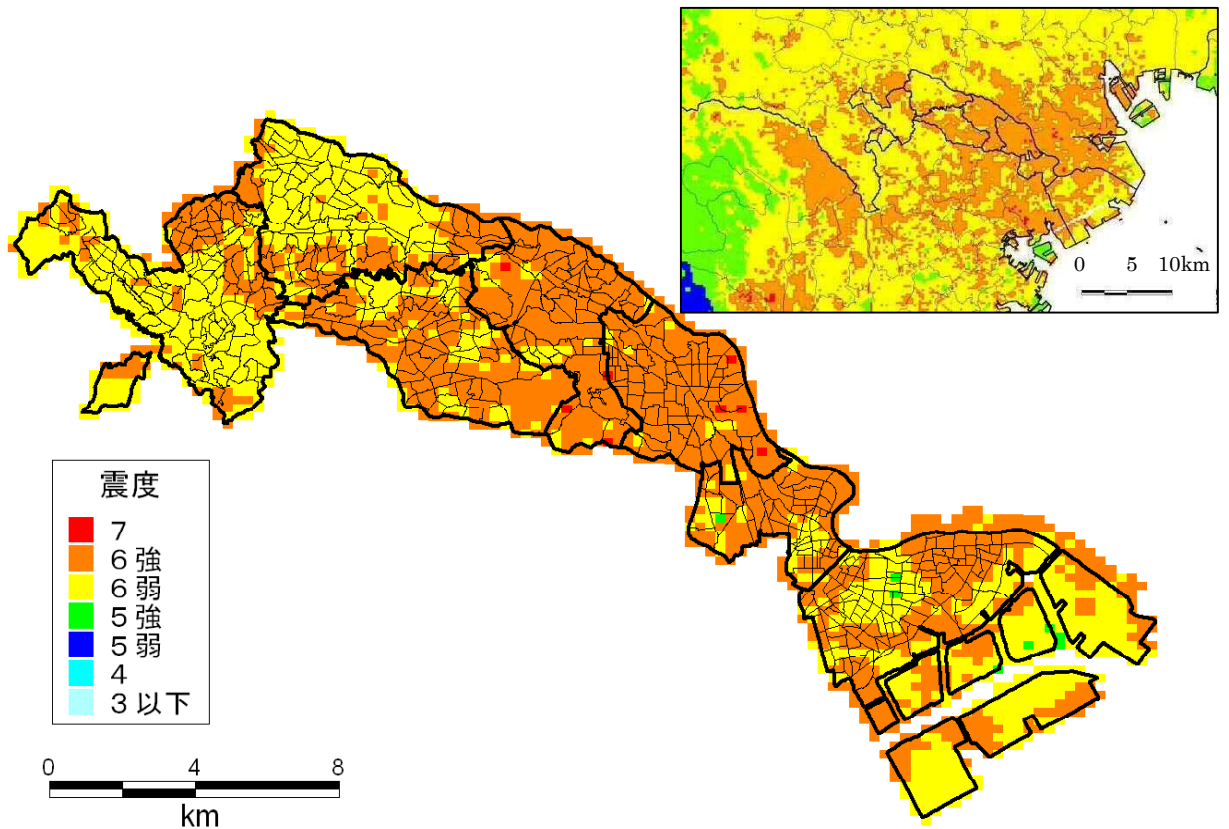
## 6. 前回調査結果

参考として、前回調査結果から、調査結果の概要、震度分布図等及び区別被害想定結果を抜粋して示します。

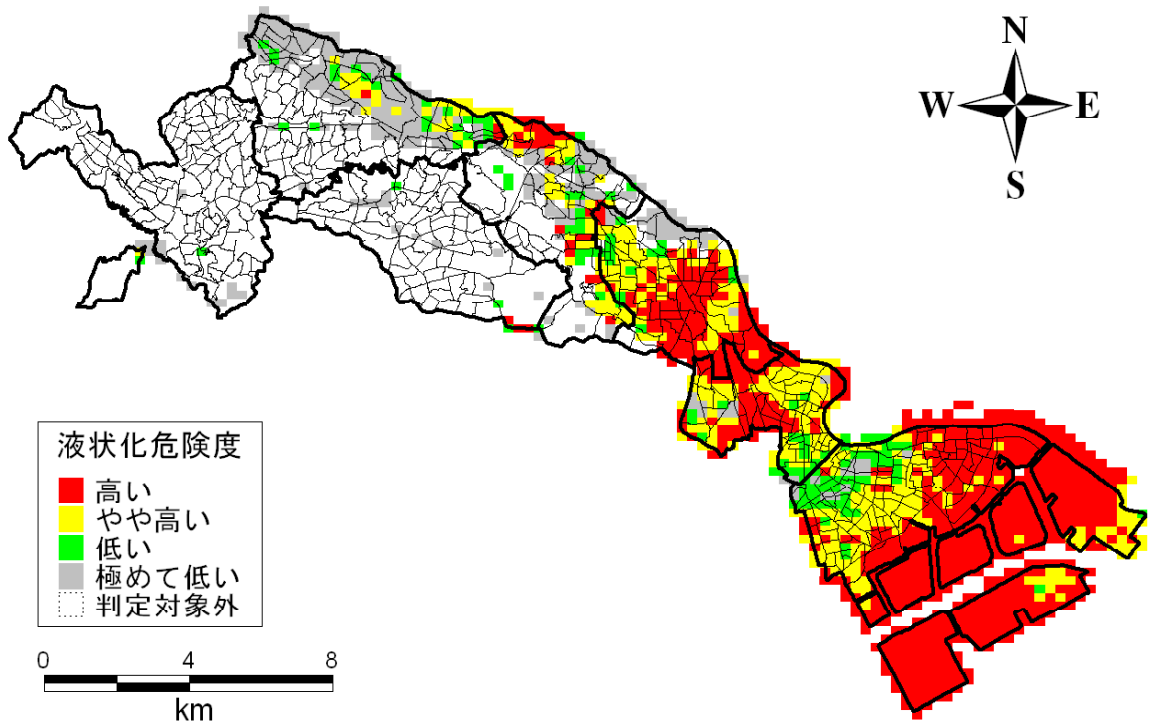
種別	被害項目	被害単位	川崎市直下の地震	南関東地震	東京湾北部地震
斜面・河川	急傾斜地崩壊	危険性が高い急傾斜地(箇所)	310	80	60
	河川堤防被害	被害率(%) (多摩川・鶴見川)	21	5	7
建物	揺れによる建物被害#	全壊数(棟)	32,940	8,390	6,670
		半壊数(棟)	54,710	27,990	23,490
	液状化による建物被害	全壊数(棟)	640	520	510
		半壊数(棟)	1,340	1,070	1,050
	急傾斜地崩壊による建物被害	全壊数(棟)	280	80	70
		半壊数(棟)	650	190	170
	津波による建物被害	全壊数(棟)	0*	0	0
		半壊数(棟)	0*	0	0
被害合計		全壊数(棟)	33,860	8,990	7,260
		半壊数(棟)	56,700	29,240	24,710
地震火災	出火	出火件数(件) (冬18時)	250	50	50
	延焼	焼失棟数(棟) (冬18時)	17,370	3,720	3,560
人的被害	死者	死者数(人) (冬18時)	1,140	290	240
	負傷者	負傷者数(人) (冬18時)	19,730	6,480	5,370
	り災世帯	全壊世帯(世帯)	86,790	22,690	18,520
		半壊世帯(世帯)	142,850	77,460	66,240
		焼失世帯(世帯)	47,520	9,770	9,480
ライフライン	上水道	断水世帯数(世帯) (1~3日後)	414,850	217,090	179,540
	下水道	機能支障世帯数(世帯) (1~3日後)	263,400	149,170	128,010
	通信	不通台数(台)	175,930	61,780	54,890
	電力	停電件数(件)	329,660	115,770	102,850
	ガス(都市ガス)	供給停止件数(件)	403,930	0	0
交通	道路橋	大規模損傷(箇所)	7	0	0
	鉄道	不通路線(路線数) (1日後)	8	1	0
	港湾	被害バース(バース数)	14	14	6
生活支障等	避難者	避難者数(人) (1~3日後)	414,720	179,520	151,320
		避難者数(人) (28日後)	204,710	53,850	47,410
	医療機能	来院者数(人) (1~3日間・冬18時)	19,780	6,490	5,380
	災害用トイレ	需要基数(基) (1~3日後)	4,150	1,800	1,510
	災害廃棄物	発生量推計値(千トン)	3,696	1,609	1,332
	自力脱出困難者	(人)(冬18時)	610	150	120
	エレベータ停止	停止台数(基) (冬18時)	5,930	5,280	5,300
	帰宅困難者	川崎市から帰宅(人)	443,410		
		川崎市へ帰宅(人)	502,340		
	経済被害	直接経済被害額(億円) (冬18時)	53.067	25.607	20.857

\*「川崎市直下の地震」の津波は本調査では想定していません。ここでは「東京湾北部地震」と同程度と想定しました。

#揺れによる建物被害は、本調査では構造被害を基準(大破・中破)として想定していますが、ここでは自治体基準により算定した結果(全壊・半壊)を示しました。

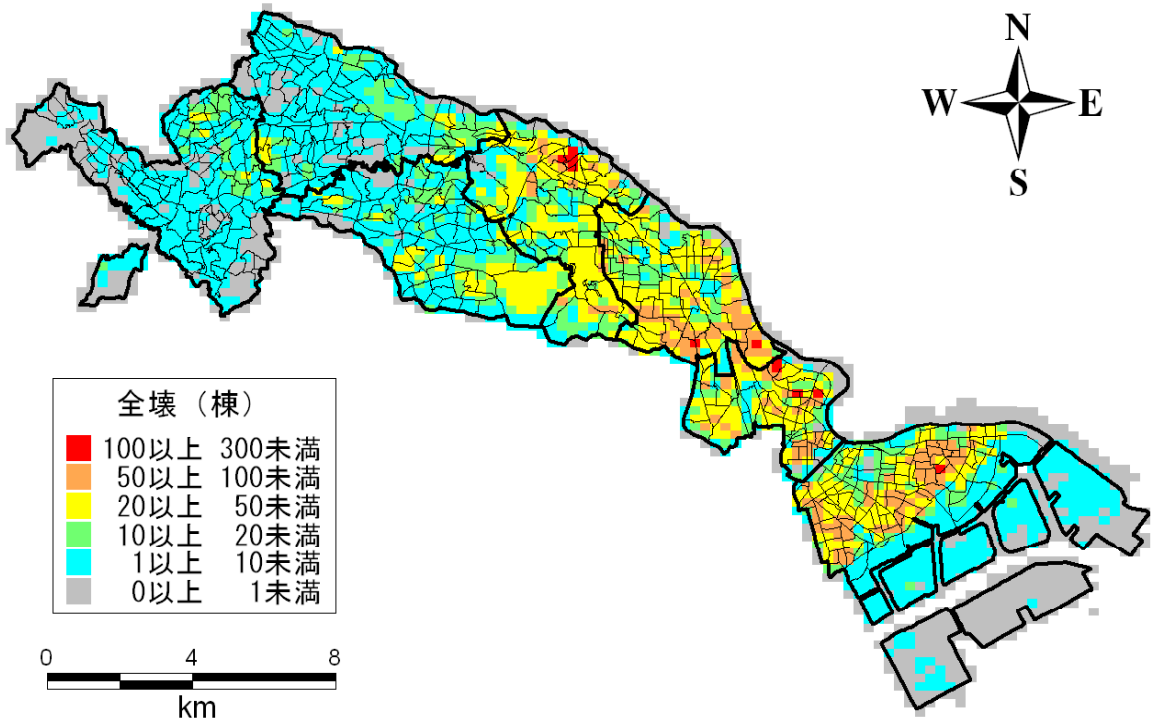


川崎市直下の地震の震度分布（右上は広域の震度分布）（前回調査）

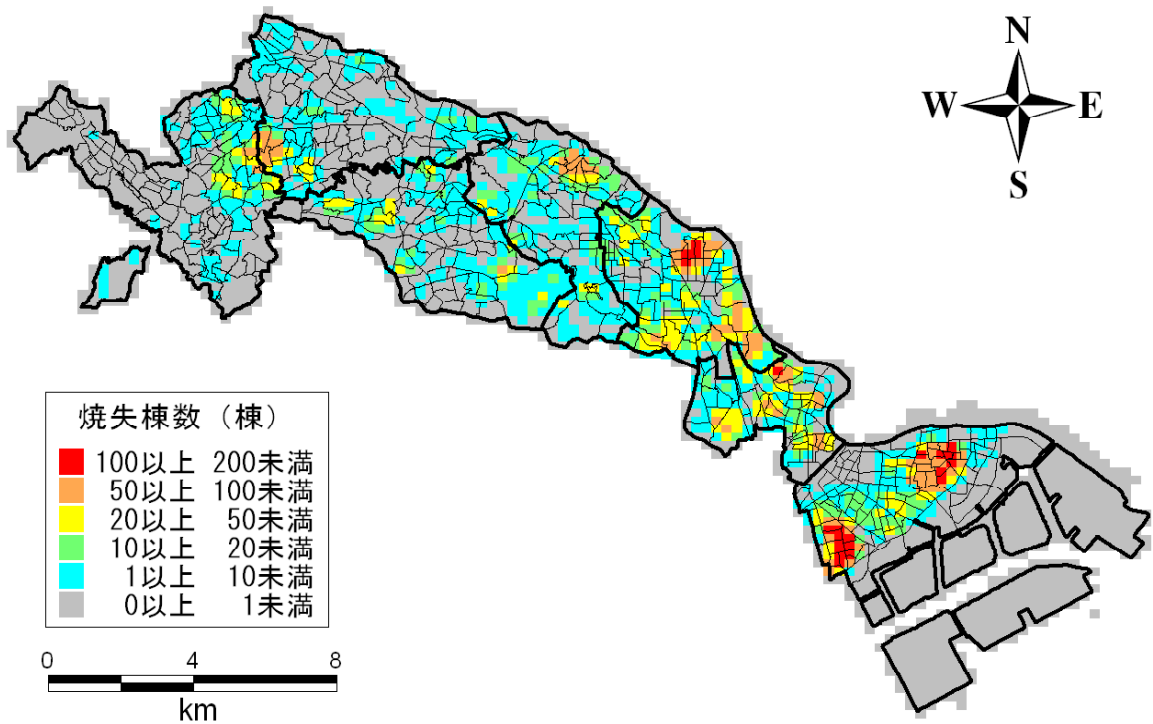


川崎市直下の地震の液状化危険度分布（前回調査）

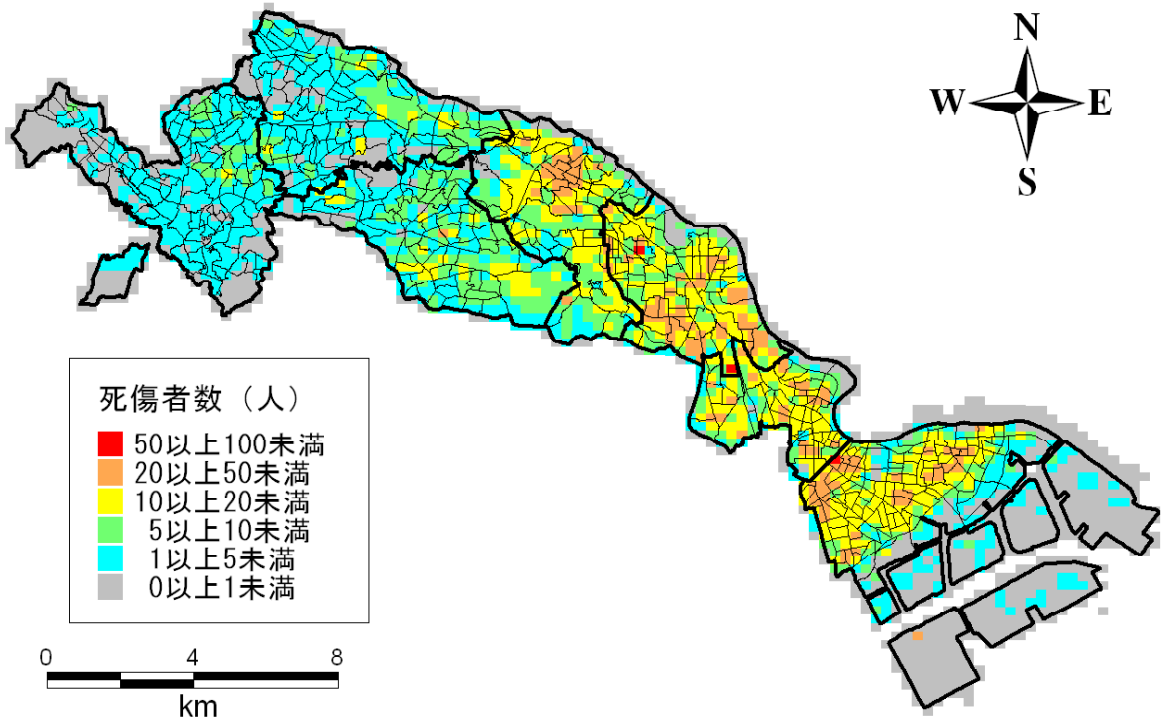




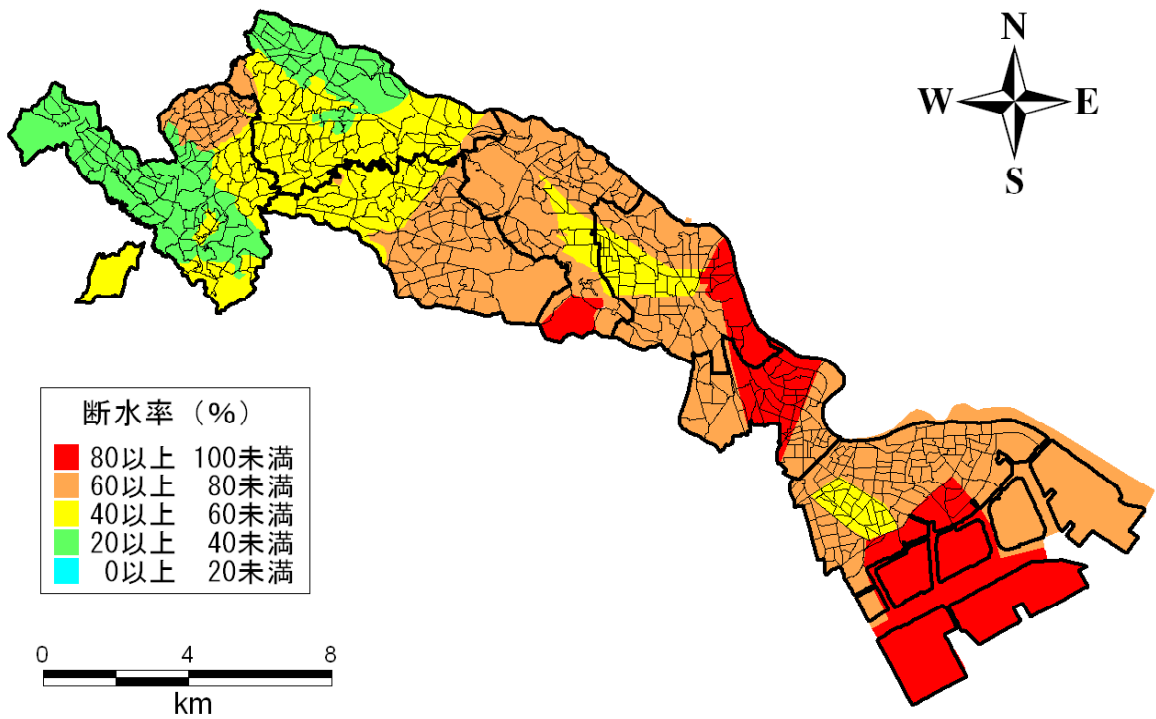
川崎市直下の地震の全壊棟数分布（前回調査）



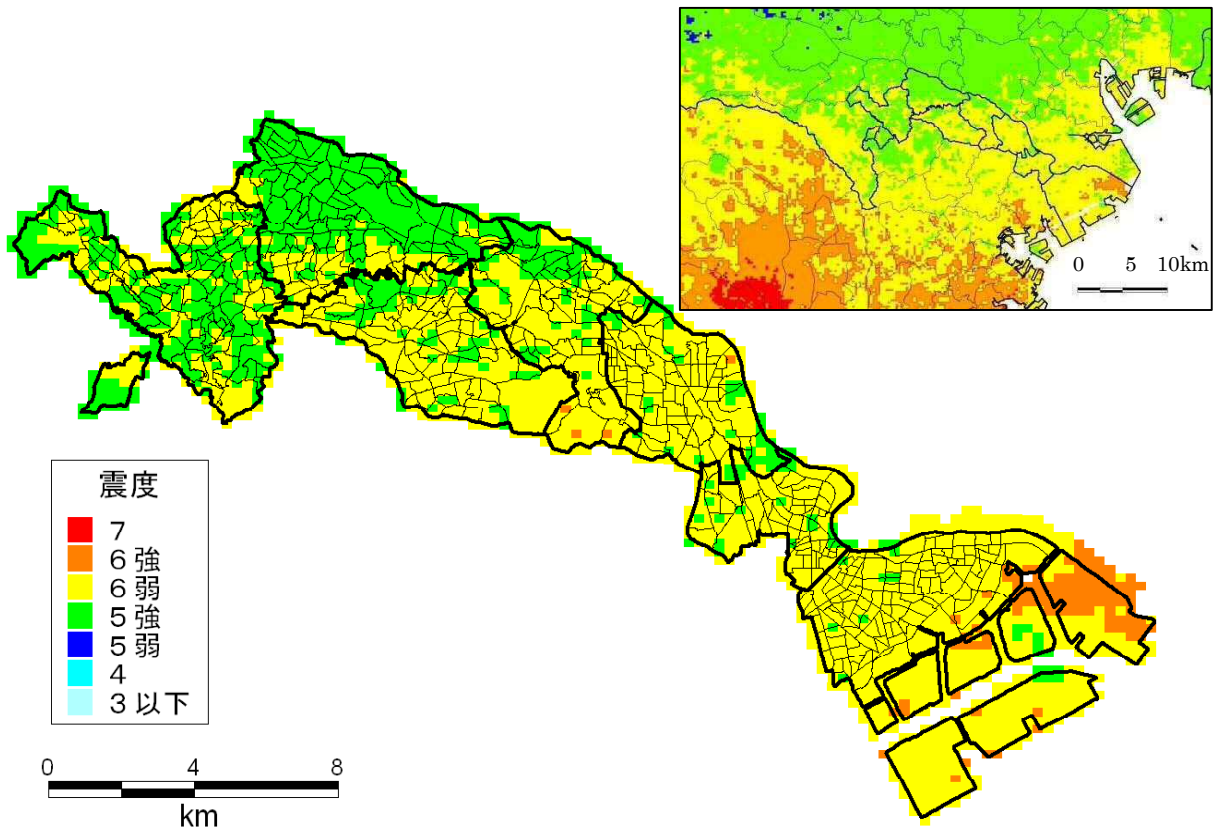
川崎市直下の焼失棟数分布（冬 18時）（前回調査）



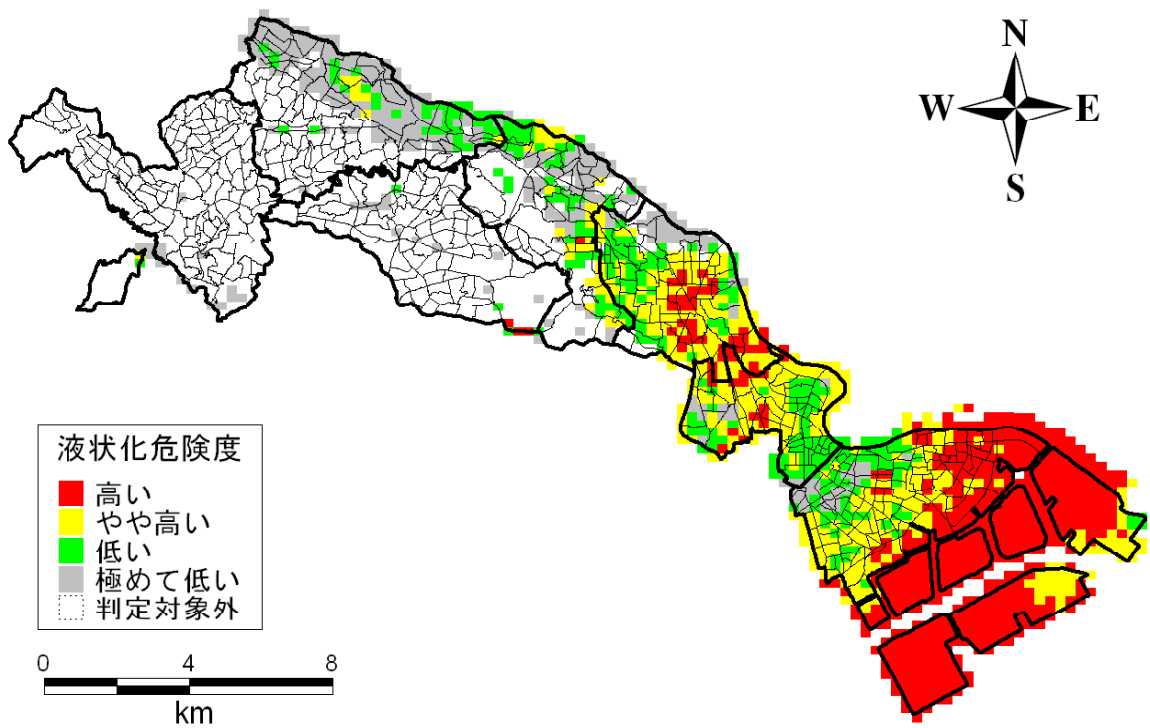
川崎市直下の地震の死傷者数分布 (冬 18時) (前回調査)



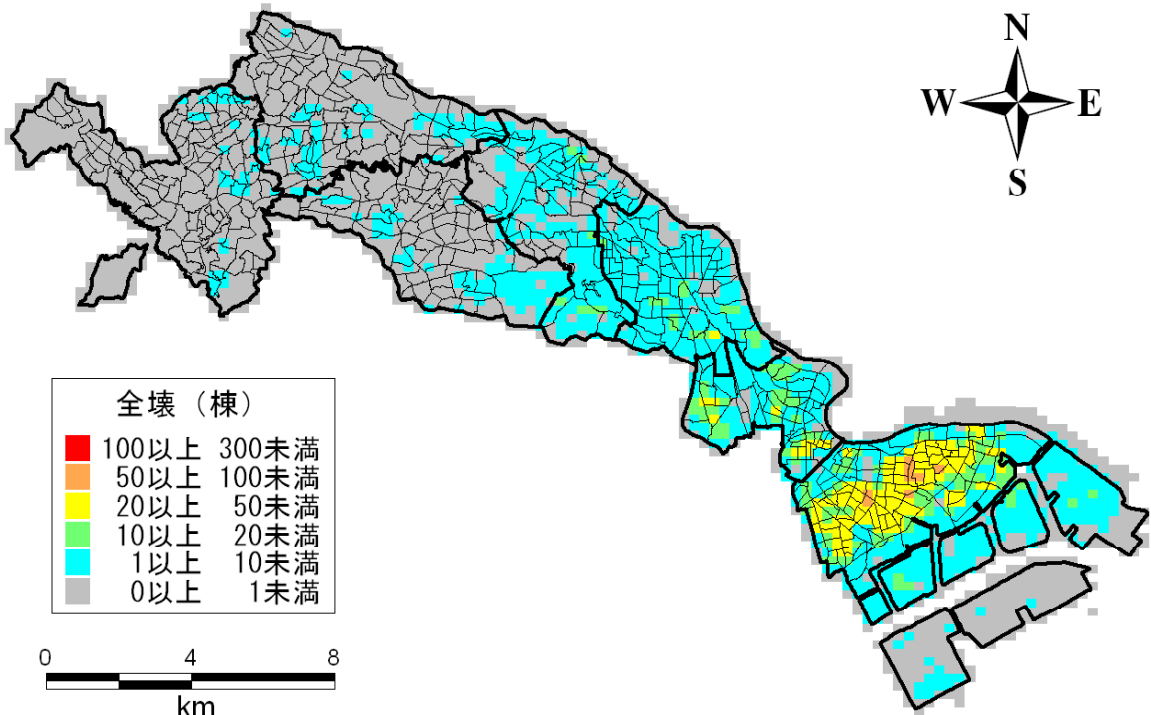
川崎市直下の地震の断水率分布 (1～3日後) (前回調査)



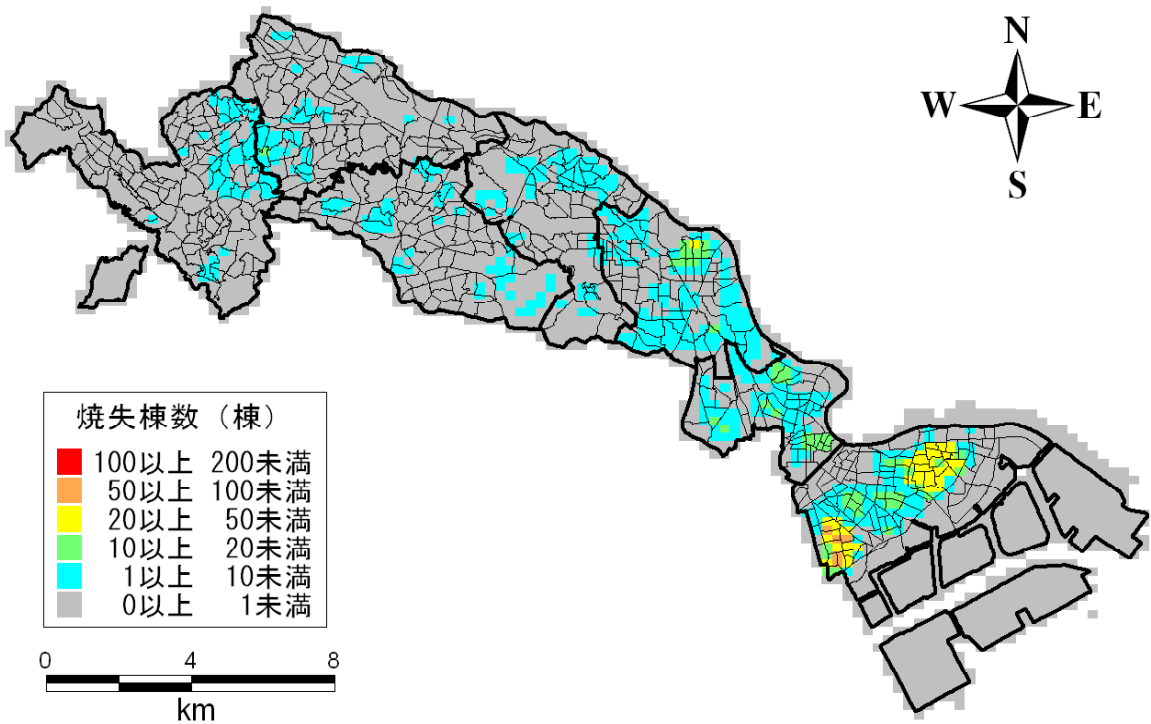
南関東地震の震度分布（右上は広域の震度分布）（前回調査）



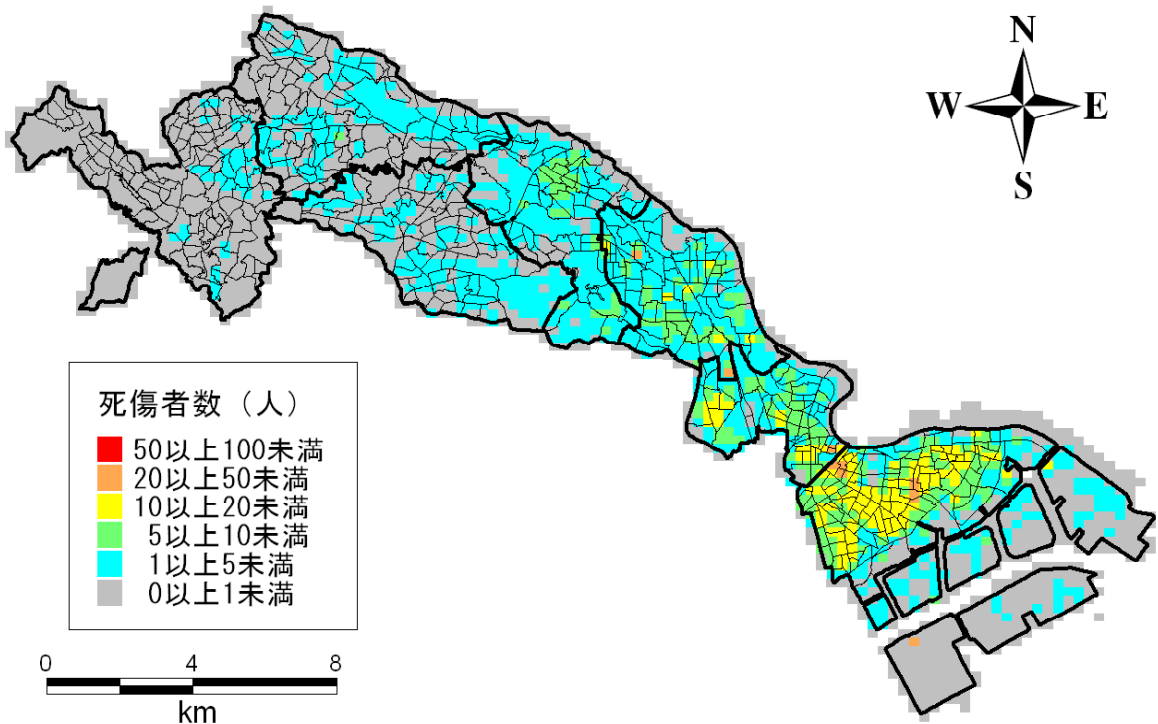
南関東地震の液状化危険度分布（前回調査）



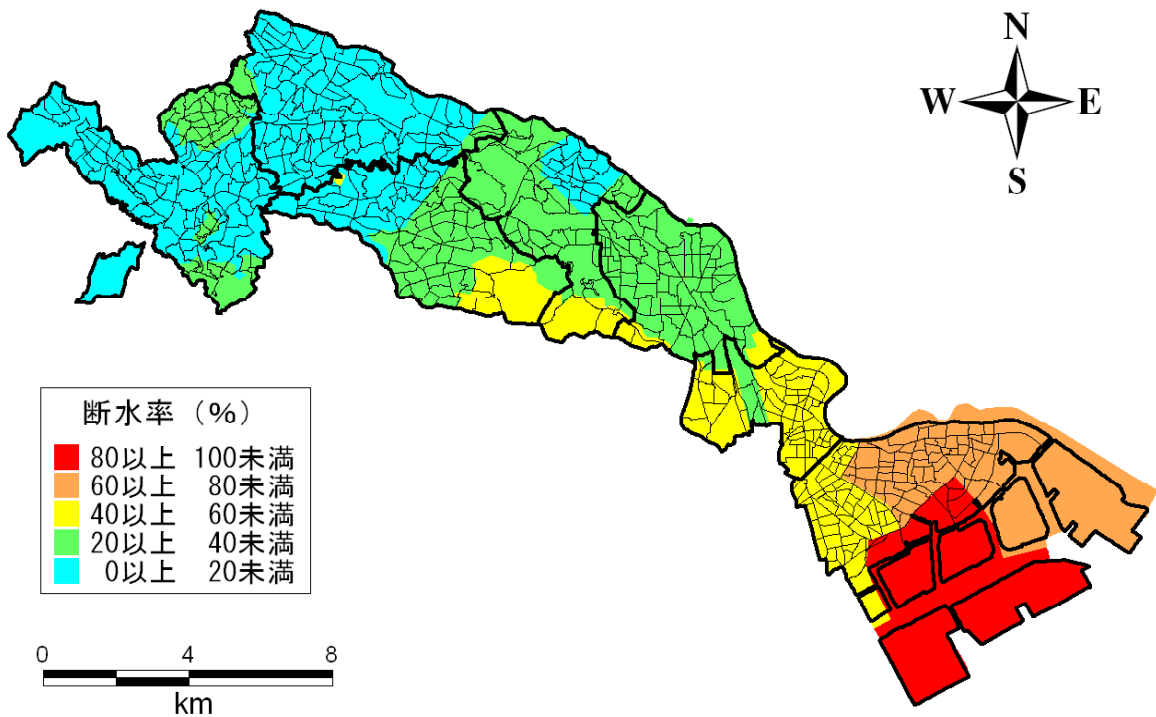
南関東地震の全壊棟数分布（前回調査）



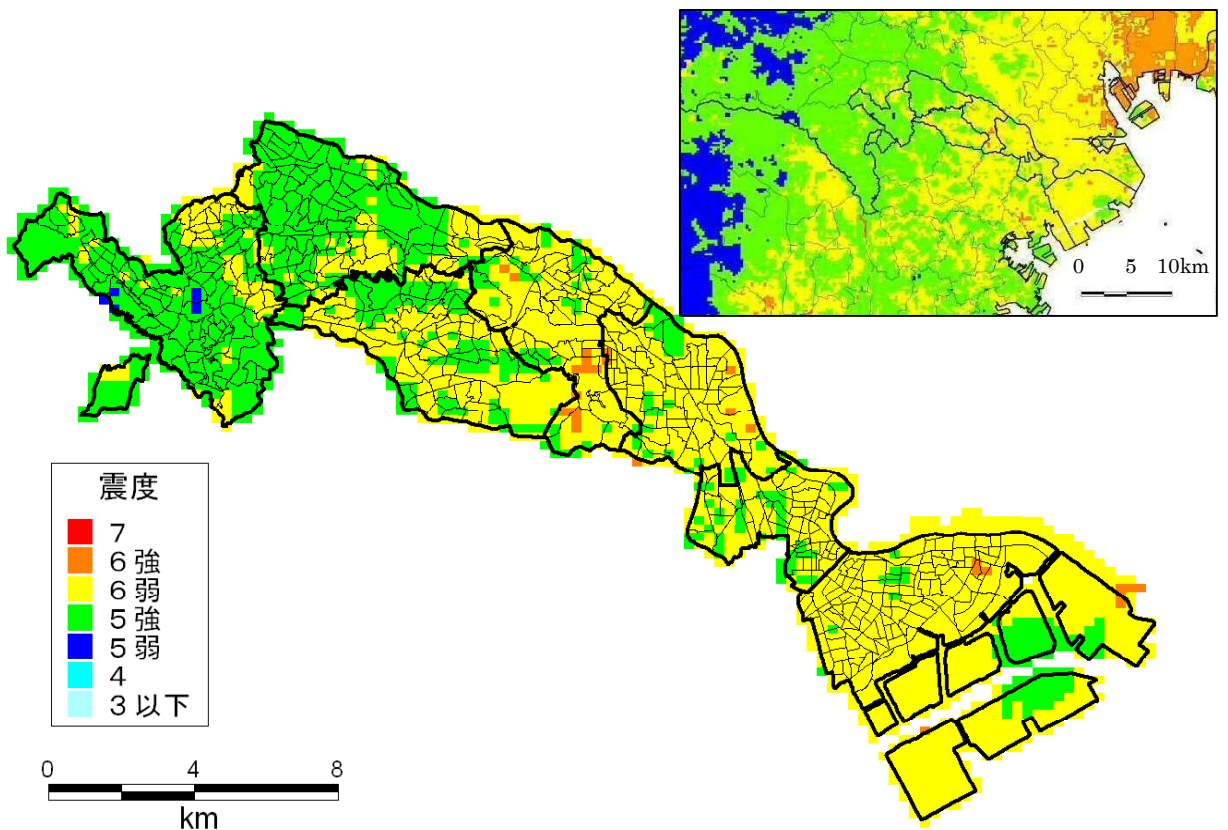
南関東地震の焼失棟数分布（冬18時）（前回調査）



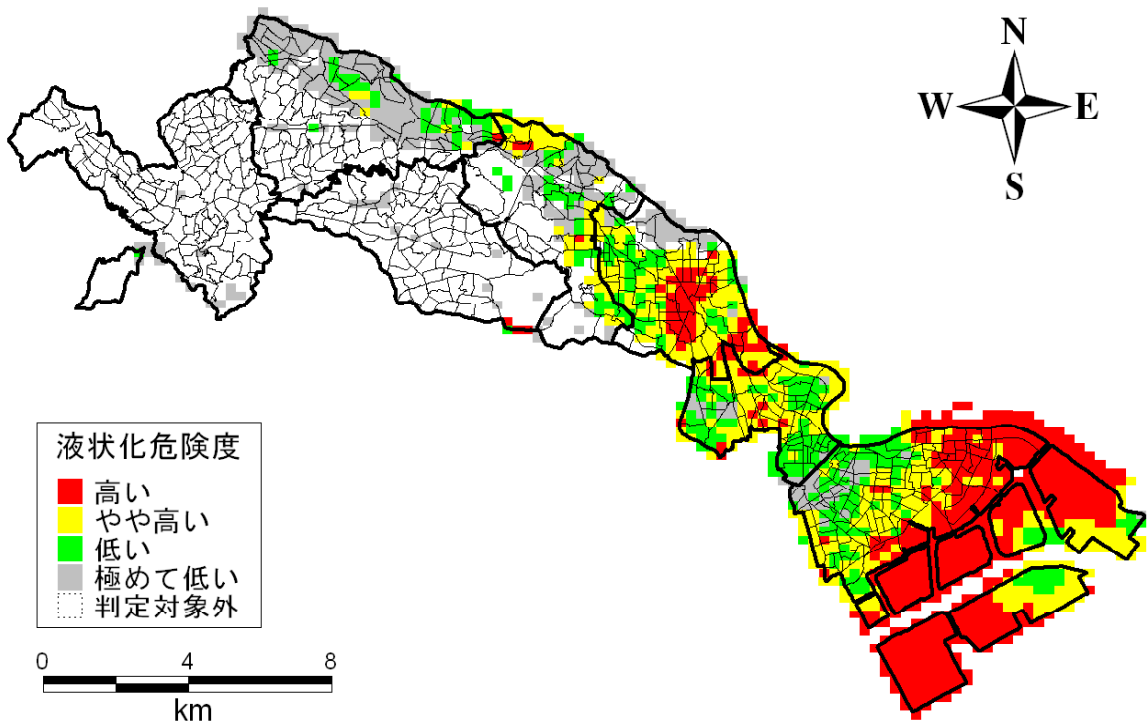
南関東地震の死傷者数分布（冬18時）（前回調査）



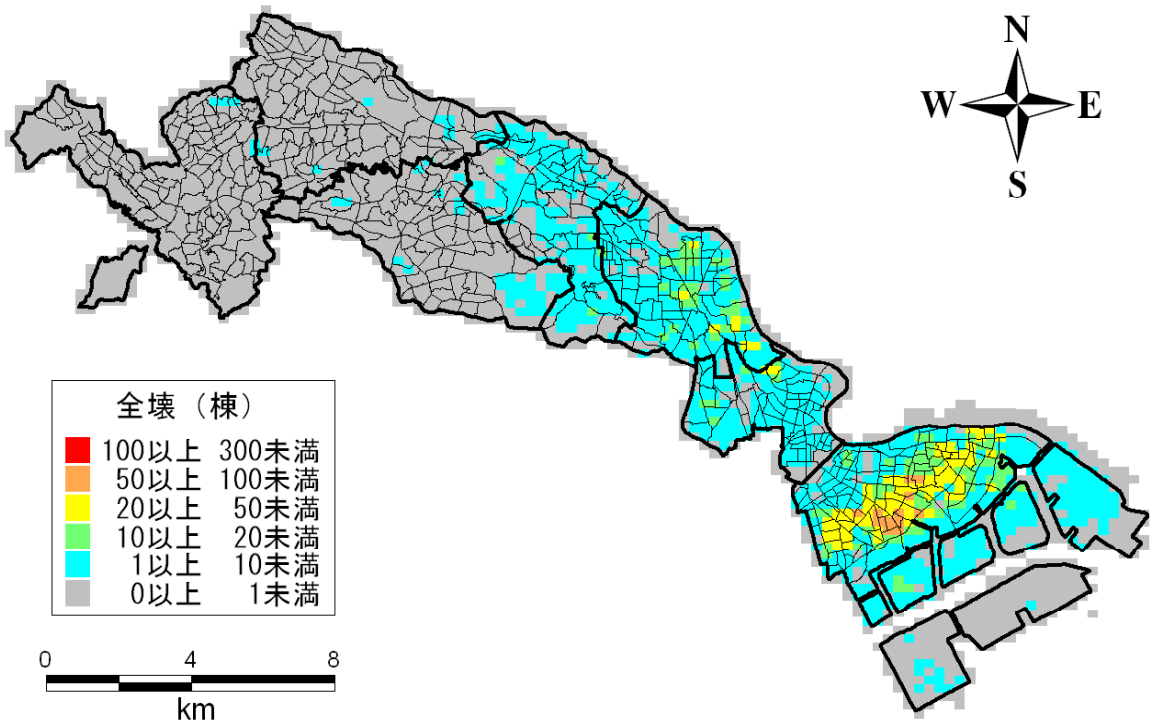
南関東地震の断水率分布（1～3日後）（前回調査）



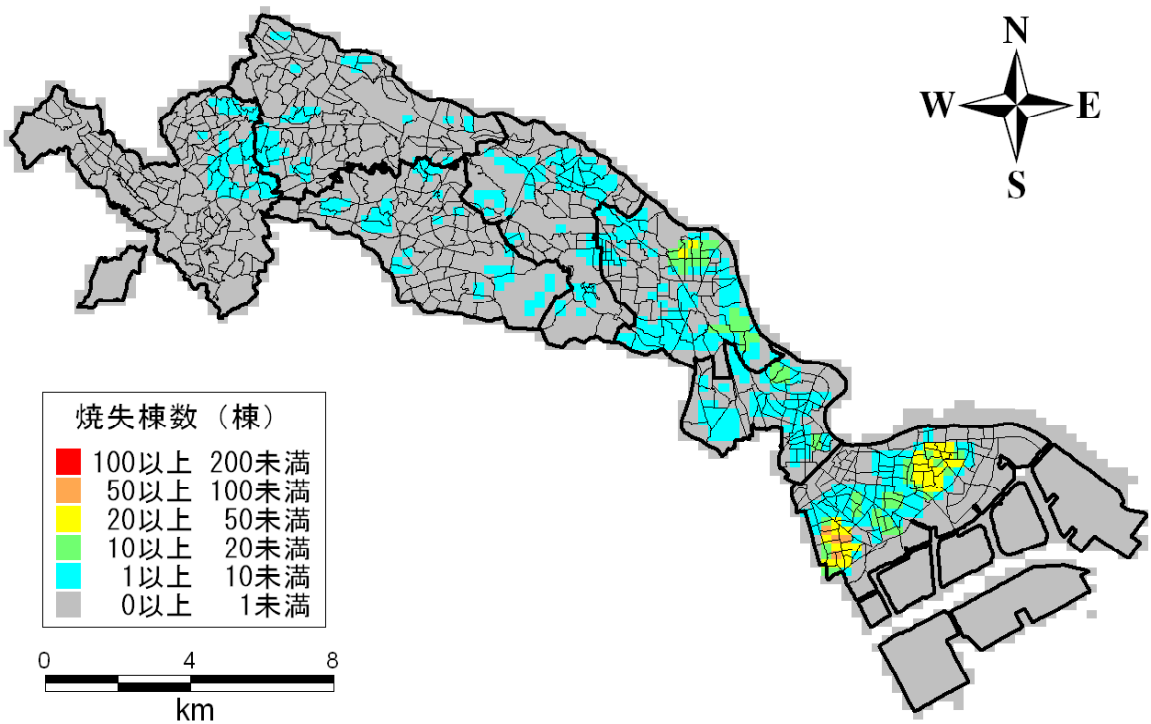
東京湾北部地震の震度分布（右上は広域の震度分布）（前回調査）



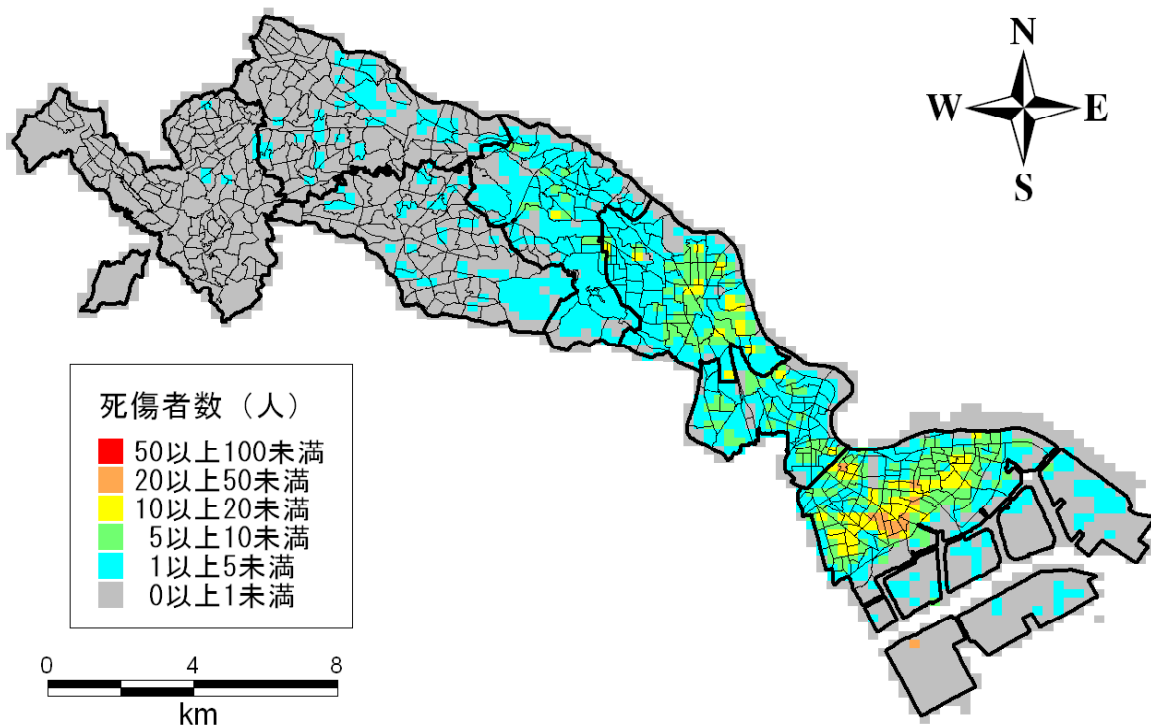
東京湾北部地震の液状化危険度分布（前回調査）



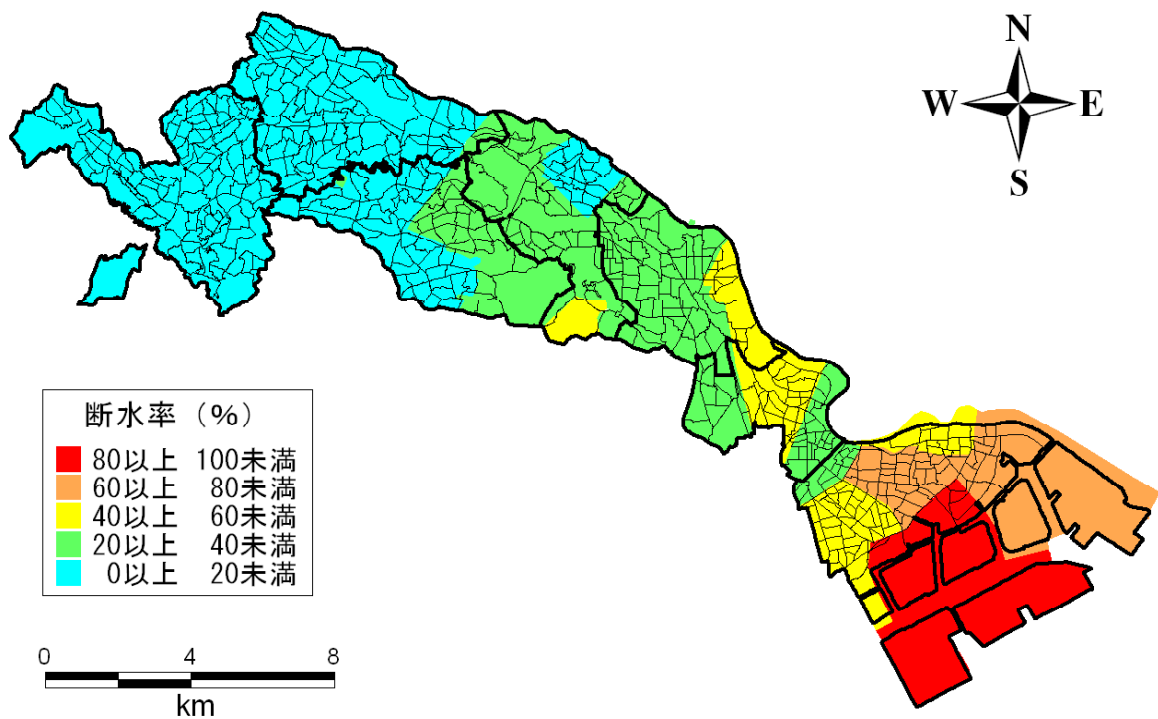
東京湾北部地震の全壊棟数分布（前回調査）



東京湾北部地震の焼失棟数分布（冬 18 時）（前回調査）



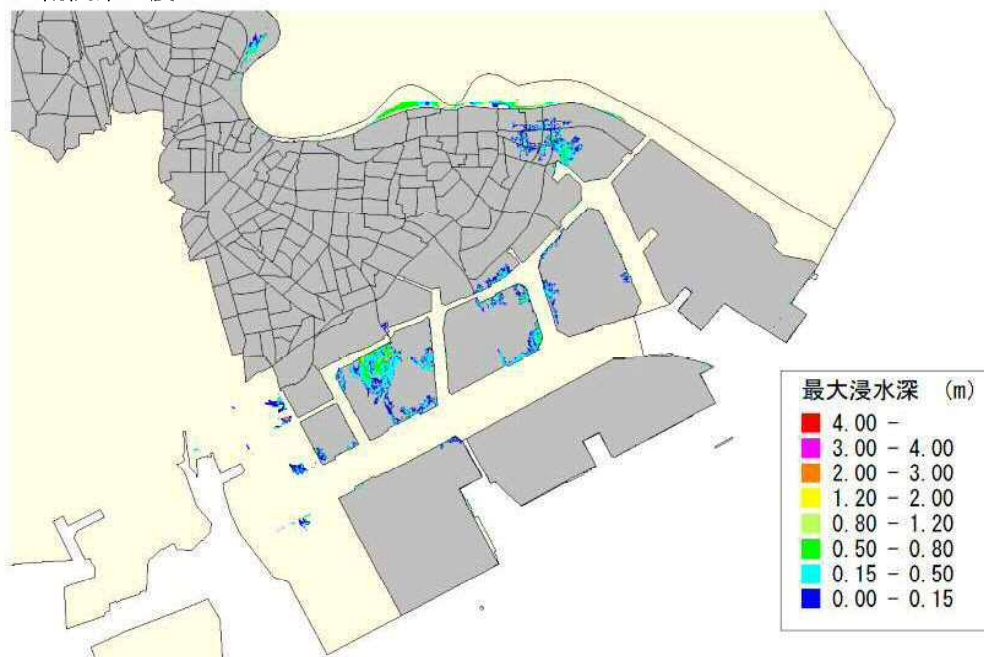
東京湾北部地震の死傷者数分布 (冬 18時) (前回調査)



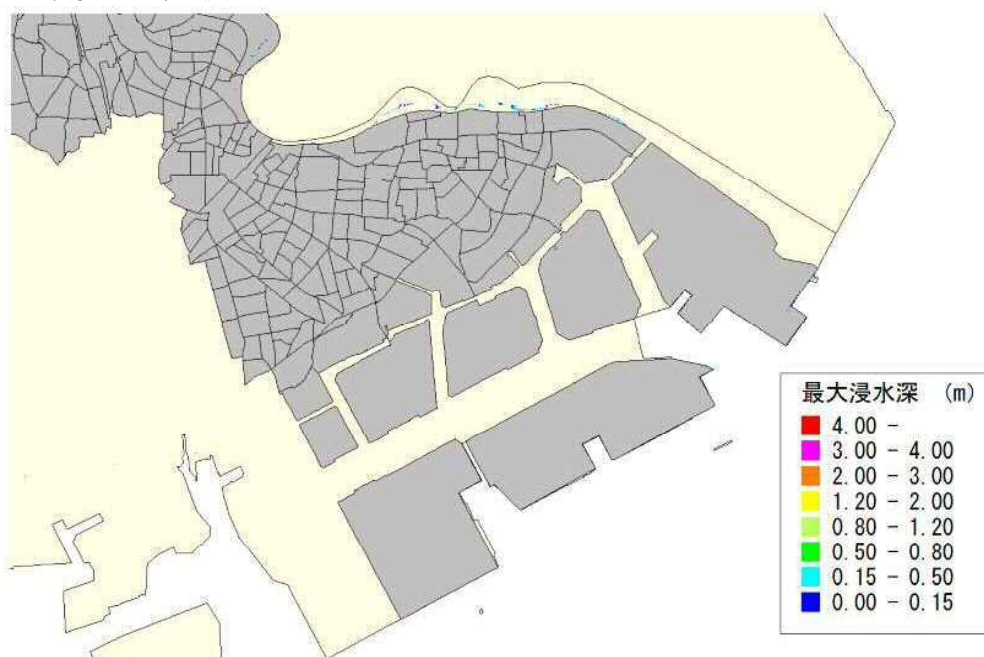
東京湾北部地震の断水率分布 (1~3日後) (前回調査)



<南関東地震>



<東京湾北部地震>



津波浸水予測図（前回調査）

前回調査時には、神奈川県地震被害想定調査(2009)の調査結果を使用しました。

<区別被害想定結果>

(1) 川崎市直下の地震 (前回調査)

区	揺れ		液状化		急傾斜地崩壊		津波		火災		合計	
	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
川崎区	8,070	11,110	340	0	0	0	8,400	11,110	40	5,390	40	5,390
幸区	4,780	6,160	130	0	0	0	4,900	6,160	30	2,330	30	2,330
中原区	7,320	9,000	160	30	0	0	7,490	9,420	50	4,160	50	4,160
高津区	6,270	8,620	20	0	0	0	6,300	8,600	50	1,670	50	1,670
宮前区	3,200	7,550	*	0	0	0	3,250	7,670	40	1,240	40	1,240
多摩区	6,050	8,190	*	10	50	120	6,190	8,360	20	1,310	20	1,310
麻生区	1,380	5,630	0	0	0	0	1,440	5,700	20	1,270	20	1,270
市合計	32,940	54,710	640	1,340	280	650	33,860	56,700	250	17,370	250	17,370

人的被害

区	建物倒壊		急傾斜地崩壊		屋外落下物		家具転倒		ブロック塀		火災		津波		合計	
	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
川崎区	220	160	400	2,460	0	0	30	10	60	110	80	1,710	0	0	300	4,930
幸区	120	100	230	1,370	0	0	20	0	40	70	40	660	0	0	160	2,500
中原区	220	190	440	2,290	0	0	30	0	50	130	70	1,350	0	0	200	4,500
高津区	160	170	370	1,940	0	0	20	0	50	100	30	440	0	0	200	3,170
宮前区	60	80	170	1,270	0	0	10	0	40	90	20	270	0	0	60	1,060
多摩区	40	40	90	960	0	0	10	0	30	80	20	300	0	0	60	1,040
麻生区	20	30	50	640	0	0	0	0	20	70	20	280	0	0	40	1,130
市合計	830	760	1,740	10,910	10	220	130	20	300	660	200	5,020	0	0	1,140	19,730

ライフライン

区	下水道		通信・電力		都市ガス		LPガス		避難者(避難所)		災害廃棄物		自立外出		工ルータ停止	
	被害数 (箇所)	被害者 (世帯)	不通台数 (台)	停電件数 (件)	供給停止 件数(件)	ガス停止 被害者 (世帯)	1~3日後 10日後 28日後 (人)	1~3日後 10日後 28日後 (人)	必要基数 (1~3日 後)(基)	災害用以外 必要基数 (1~3日 後)(基)	発生量推計値 可燃物 (千ト)	不燃物 (千ト)	合計 (千ト)	困難者 (人)	停止台数 (基)	閉じ込め 台数(基)
川崎区	140	77,730	240	66,640	97,000	70	79,170	69,090	45,090	790	267	1,069	140	1,690	*	*
幸区	60	53,590	100	38,240	61,600	80	56,440	55,530	30,400	580	92	367	80	458	80	810
中原区	90	48,940	110	42,560	105,140	140	82,960	71,470	830	146	583	729	160	1,040	*	*
高津区	90	71,020	130	33,510	74,460	310	71,130	58,800	35,970	710	111	445	130	940	*	*
宮前区	90	62,220	70	30,550	59,020	220	58,660	51,050	20,330	590	58	232	50	650	*	*
多摩区	40	40,820	140	32,890	6,710	190	36,470	14,560	13,380	370	35	142	177	30	570	0
麻生区	60	31,030	100	19,000	0	50	29,870	13,800	9,830	300	30	120	20	430	0	0
市合計	970	414,850	890	263,400	403,930	1,060	414,720	334,320	204,710	4,150	739	2,957	610	5,930	10	10

交通等

全市	道路橋	鉄道	港湾	医療機能	帰宅困難者	経済被害
大規模 損傷 (箇所)	7	8	14	19,780	443,340	53,067
川崎市	1	1	1	19,780	443,340	53,067

※川崎市直下の地震の津波は本調査では想定していません。ここでは「東京湾北部地震」と同程度と想定しました。  
 ※※冬18時の想定。合計は四捨五入の関係で合わない場合があります。  
 ※※※交通等の一部の被害を除き、1~4の数値の場合\*補記としています。

基礎資料

総世帯数と時間別人口	平成20年9月現在					平成20年3月現在										
	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	全市計	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	全市計
総世帯数	110,037	70,031	112,504	99,011	91,409	98,126	69,575	650,693	45,694	23,974	35,441	32,286	33,174	37,176	34,893	242,638
5時	217,098	150,404	222,485	210,167	214,168	203,220	163,114	1,380,656	26,428	16,483	22,877	22,235	24,360	26,767	27,226	166,376
12時	257,520	129,185	198,052	170,150	145,518	154,901	119,755	1,175,081	4,511	1,735	3,841	3,386	3,607	3,748	3,062	23,890
18時	267,599	149,484	226,127	201,729	185,958	188,629	147,908	1,367,434	14,755	5,756	8,723	6,665	5,207	6,661	4,605	52,372
	(19.6%)	(19.9%)	(16.5%)	(14.8%)	(13.6%)	(13.8%)	(10.8%)	(100%)	(28.2%)	(11.0%)	(16.7%)	(12.7%)	(9.9%)	(12.7%)	(8.8%)	(100%)

※RC造…鉄筋コンクリート造、S造…鉄骨造

(2) 南関東地震 (前回調査)

地震動 建物被害

区	揺れ			液状化			急傾斜地崩壊			津波			火災			合計			延焼		
	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)
川崎市	5,430	10,200	300	0	0	180	0	0	1,060	10,730	20	1,990									
幸区	5,330	9,910	90	0	0	0	0	0	1,060	4,120	10	470									
中原区	830	4,460	110	0	0	0	0	0	940	4,740	10	550									
高津区	590	3,500	10	0	0	0	0	0	640	3,630	10	210									
宮前区	5,550	2,400	0	0	0	0	0	0	260	2,160	10	160									
多摩区	200	2,280	0	0	0	0	0	0	210	2,310	0	180									
麻生区	130	1,530	0	0	0	0	0	0	150	1,560	0	160									
市合計	8,930	21,990	520	0	0	170	0	0	8,990	29,240	50	3,720									

人的被害

区	建物倒壊		急傾斜地崩壊		崖崩下物		家具転倒		プロック墜		火災		津波		合計		り災世帯		床上/水田		床下/浸水世帯	
	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
川崎市	130	100	260	1,930	0	0	0	0	60	530	80	30	0	0	170	2,950	13,200	24,720	4,800	390	0	2,500
幸区	20	20	50	630	0	0	0	0	20	40	40	10	0	0	30	810	3,040	11,810	1,360	10	0	10
中原区	30	20	50	760	0	0	0	0	30	50	70	10	0	0	40	980	2,940	14,810	1,730	0	0	0
高津区	20	20	40	540	0	0	0	0	30	50	40	0	0	0	20	720	1,940	11,060	650	0	0	0
宮前区	10	10	20	260	0	0	0	0	20	20	50	0	0	0	10	400	720	5,910	440	0	0	0
多摩区	0	0	10	290	0	0	0	0	20	20	40	0	0	0	10	380	560	6,060	470	0	0	0
麻生区	0	0	10	160	0	0	0	0	10	10	40	0	0	0	10	240	290	3,090	320	0	0	0
市合計	210	180	420	4,570	0	0	0	0	190	1,010	350	60	0	0	290	6,480	22,690	77,460	9,770	400	0	2,500

ライフライン

区	断水世帯			断電世帯			通信・電力			都市ガス			LPガス			生活支援等			災害救助			その他			
	被害数 (箇所)	被害者 (人)	世帯数 (世帯)	被害数 (箇所)	被害者 (人)	世帯数 (世帯)	被害数 (箇所)	被害者 (人)	世帯数 (世帯)	被害数 (箇所)	被害者 (人)	世帯数 (世帯)	被害数 (箇所)	被害者 (人)	世帯数 (世帯)	被害数 (箇所)	被害者 (人)	世帯数 (世帯)	被害数 (箇所)	被害者 (人)	世帯数 (世帯)	被害数 (箇所)	被害者 (人)	世帯数 (世帯)	
川崎市	130	67,520	190	56,950	0	0	60,200	59,490	26,720	600	1,124	900	1,490	0	0	21,900	27,060	7,900	280	219	117	146	20	550	
幸区	30	32,950	50	29,530	0	0	28,370	16,660	8,560	280	31	125	166	20	970	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中原区	30	35,410	40	19,250	0	0	23,390	14,630	5,000	240	17	69	88	10	870	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高津区	30	30,420	40	12,920	0	0	19,970	9,160	2,430	200	8	31	39	10	580	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宮前区	30	25,990	30	11,310	0	0	10,550	1,900	1,300	90	20	32	32	0	470	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
多摩区	20	14,190	50	12,200	0	0	8,950	2,730	1,300	25	20	25	25	0	360	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻生区	20	11,930	40	7,000	0	0	179,520	131,640	53,850	1,800	1,609	322	1,288	1,500	5,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市合計	280	217,090	430	149,170	2,380	61,780	115,770	0	0	10	10	1,800	1,800	1,500	5,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

交通等

市	道路	鉄道	港湾	医療機能	帰宅困難者	船隻	川崎市	川崎市	川崎市	川崎市	川崎市	川崎市	川崎市
川崎市	0	1	14	6,490	443,410	502,340	25,607	0	0	0	0	0	0

※冬18時の想定。合計は四捨五入の関係で合わない場合があります。  
※※交通等の一部の被害を除き、1~4の数値の場合\*補記としています。

基礎資料

総世帯数	時間別人口				全建物棟数と内訳				
	川崎市	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	全市計	
110,037	70,031	112,504	99,011	91,409	98,126	69,375	650,693	総数	
5時	217,098	150,404	222,485	210,167	214,168	203,220	163,114	1,380,656	木造
12時	257,520	129,185	198,052	170,150	145,518	154,901	119,755	1,175,081	R C造
18時	261,599	149,484	226,127	201,729	185,958	188,629	147,908	1,367,434	S造

※R C造...鉄筋コンクリート造、S造...鉄骨造

(3) 東京湾北部地震 (前回調査)

区	現れ		液体化		急傾斜地崩壊		津波		火災		延焼		
	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	全壊数 (棟)	半壊数 (棟)	
川崎区	5棟-6棟	4,390	9,120	290	510	0	0	0	0	4,680	9,630	20	1,800
幸区	5棟-6棟	490	3,070	80	190	0	0	0	0	580	3,250	0	400
中原区	5棟-6棟	1,040	4,690	130	310	0	0	0	0	1,170	5,000	10	670
高津区	5棟-6棟	470	3,120	10	40	90	0	0	0	520	3,260	10	250
宮前区	5棟-6棟	130	1,450	0	20	0	0	0	0	150	1,490	0	140
多摩区	5棟-6棟	100	1,410	0	10	20	0	0	0	110	1,440	0	170
麻生区	5棟-6棟	40	620	0	10	20	0	0	0	50	650	0	150
市合計	5棟-6棟	6,670	23,490	510	1,050	70	170	0	0	7,260	24,710	50	3,560

地震動

建物被害

人的被害

区	建物倒壊		高傾斜地崩壊		崖崩下物		家具転倒		火災		津波		合計		震災世帯		
	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)	
川崎区	110	80	190	1,610	0	0	0	0	60	28	460	0	140	2,460	10,830	22,270	4,320
幸区	10	10	30	440	0	0	0	0	30	6	40	0	20	570	1,660	9,350	1,160
中原区	30	30	60	810	0	0	10	0	60	10	70	0	40	1,050	3,630	15,570	2,130
高津区	10	10	30	470	0	0	30	0	40	0	20	0	20	640	1,590	9,910	760
宮前区	0	0	10	190	0	0	0	0	40	0	10	0	10	290	410	4,080	380
多摩区	0	0	10	180	0	0	0	0	30	0	20	0	10	250	300	3,780	450
麻生区	0	0	0	60	0	0	0	0	20	0	10	0	10	120	100	1,290	290
市合計	170	140	330	3,770	0	0	30	10	270	50	620	0	240	5,370	18,320	66,240	9,480

ライフライン

生活支援等

区	ライフライン		生活支援等		都市ガス		LPガス		停電被害		通信・電力		下水道		被害世帯		被害世帯		被害世帯						
	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)	被害数 (箇所)					
川崎区	110	59,800	170	51,950	0	0	53,380	50,470	22,920	530	913	70	1,530	0	0	22,680	14,660	230	21	82	703	10	540	0	
幸区	20	27,460	30	27,100	0	0	30,630	18,270	10,120	310	36	143	79	20	970	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中原区	30	36,880	40	18,700	0	0	21,560	11,070	4,690	220	15	61	77	10	880	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高津区	30	27,380	40	10,630	0	0	14,670	2,300	1,780	150	22	27	27	0	570	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宮前区	20	18,650	20	8,200	0	0	5,600	1,430	60	4	17	27	0	0	460	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
多摩区	10	6,660	30	8,910	0	0	2,810	860	860	30	3	10	13	0	350	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻生区	10	2,600	10	2,530	0	0	15,320	99,060	47,410	1,510	266	1,066	1,322	120	5,300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市合計	230	179,540	340	128,010	2,190	54,890	102,850	20	151,320	99,060	47,410	1,510	266	1,066	1,322	120	5,300	0	0	0	0	0	0	0	0

交通等

全市	道路橋	鉄道	港湾	医療機能	帰宅困難者	船室困難者	川崎市へ	経済被害
(箇所)	(箇所)	(箇所)	(箇所)	(箇所)	(箇所)	(箇所)	(箇所)	(箇所)
0	0	6	5,380	443,410	502,340	20,857	20,857	20,857

※冬18時の想定。合計は四捨五入の関係で合わない場合があります。  
 ※※交通等の一部の被害を除き、1~4の数値の場合\*補記としています。

基礎資料

総世帯数	時間別人口				平成20年9月現在			
	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	全市計
110,037	70,031	112,504	99,011	91,409	98,126	69,575	650,693	
5時	217,098	150,404	222,485	210,167	214,168	203,220	163,114	1,380,656
12時	257,520	129,185	198,052	170,150	145,518	154,901	119,755	1,175,081
18時	267,599	149,484	226,127	201,729	185,958	188,629	147,908	1,367,434
	(19.6%)	(19.9%)	(16.5%)	(14.8%)	(13.6%)	(13.8%)	(10.8%)	(100%)

総世帯数	全建物棟数と内訳				平成20年3月現在			
	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	全市計
45,694	23,974	35,441	32,286	33,174	37,176	34,893	242,638	
木造	26,428	16,483	22,877	22,285	24,360	26,767	166,376	
R C造	4,511	1,735	3,841	3,386	3,607	3,748	23,890	
S造	14,755	5,756	8,723	6,665	5,207	6,661	52,372	
	(28.2%)	(11.0%)	(16.7%)	(12.7%)	(9.9%)	(12.7%)	(8.8%)	(100%)

※R C造…鉄筋コンクリート造、S造…鉄骨造

《参考》 「震度6強！その時あなたは？」

震度と揺れ等の状況(概要)

<p><b>0</b> [震度0] 人は揺れを感じない。</p>	<p><b>1</b> [震度1] 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。</p>	<p><b>2</b> [震度2] 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。</p>	<p><b>3</b> [震度3] 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。</p>
--------------------------------------	-----------------------------------------------------------	---------------------------------------------------	------------------------------------------------

<p><b>4</b> [震度4] ● ほとんどの人が驚く。 ● 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ● 座りの悪い置物が、倒れることがある。</p>	<p><b>6弱</b> ● 立っていることが困難になる。 ● 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ● 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ● 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p><b>5弱</b> [震度5弱] ● 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ● 棚にある食器類や本が落ちることがある。 ● 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。</p>	<p><b>6強</b> ● はわなないと動くことができない。飛ばされることもある。 ● 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。 ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。 ● 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p><b>5強</b> [震度5強] ● 物につかまらなると歩くことが難しい。 ● 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。 ● 固定していない家具が倒れることがある。 ● 補強されていないブロック塀が崩れることがある。</p>	<p><b>7</b> [震度7] ● 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。 ● 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ● 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**地震が起きたら** ▶ **あわてず、まず身の安全を!!** ▶ **緊急地震速報を見聞きしたら**

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難</li> <li>● あわてて外に飛び出さない(落下物や車が危険)</li> <li>● 揺れがおさまってから、あわてず火の始末</li> <li>● あわてた行動、けがのもと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 運転中は、ハザードランプを点灯し、緩やかに減速</li> <li>● 近づくな、門や塀、自動販売機やビルのそば</li> <li>● 海岸でぐらっときたら高台へ</li> </ul>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

家屋の耐震化や家具の固定など、日頃から地震に備えましょう!!

川崎市地震被害想定調査報告書(概要版)

平成25年3月発行

発行 川崎市(総務局危機管理室)  
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地  
Tel 044-200-2850  
Fax 044-200-3972  
E-mail: 16kiki@city.kawasaki.jp

